

豊山町地域公共交通計画(案)

令和2年3月

豊山町

目次

はじめに	1
1. 現状	2
1-1. 豊山町の現状	2
1-1-1. 地勢	2
1-1-2. 人口	3
1-1-3. 施設分布	4
1-1-4. 交通手段分担率	5
1-1-5. 通勤・通学目的による流入人口の状況	7
1-2. 豊山町の公共交通概要	8
1-2-1. バス	8
1-2-2. タクシー・移送サービス	17
1-2-3. 名古屋空港	18
1-2-4. 近接自治体のバス路線	19
2. 第一次豊山町地域公共交通網形成計画の実施状況	20
2-1. 事業の実施状況	20
2-2. 数値目標の達成状況	23
3. 豊山町の公共交通の現況及び町民等の意向の整理	24
3-1. 公共交通に関する調査結果に基づく現況	24
3-1-1. 乗降調査	24
3-1-2. OD調査	24
3-1-3. バス利用者アンケート調査	30
3-2. バス停から300m範囲内の人口	34
3-3. 町民等の意向の整理	35
3-3-1. 「平成30年度町民意識調査」の結果から	35
3-3-2. 住民懇談会	35
4. 地域公共交通網形成計画の上位・関連計画	37
4-1. 上位計画	37
4-1-1. 豊山町第5次総合計画	37
4-2. 関連計画	37
4-2-1. 豊山町都市計画マスタープラン	37
4-2-2. 第8次豊山町高齢者福祉計画・第7次介護保険事業計画	38
4-2-3. 豊山町障害者福祉計画（第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画）	38
4-2-4. 豊山町子ども・子育て支援事業計画	39
4-2-5. 豊山町男女共同参画社会計画「第2次とよやまレインボープラン」	39
4-2-6. 第2次とよやま健康づくり21計画	39

5. 地域公共交通網形成計画の基本的な考え方	40
5-1. 基本方針	40
5-2. 計画の区域	40
5-3. 計画期間	40
5-4. 計画の目標	40
6. 目標達成のために行う事業・実施主体	42
6-1. 「人にやさしい安全な交通」のために行う事業	42
6-1-1. バスの待合環境の整備	42
6-1-2. 高齢者の移動支援	42
6-2. 「まちの機能や魅力を高める利便性の高い交通」のために行う事業	43
6-2-1. バスの利便性の向上	43
6-2-2. 利用しやすい運賃体系の構築	43
6-2-3. 隣接自治体のバス路線との連携	43
6-3. 「環境にやさしい交通」のために行う事業	44
6-3-1. 自動車に過度に依存しない交通行動の促進	44
6-3-2. 自転車・徒歩で移動できる交通環境の整備	45
6-4. 実施スケジュール	46
7. 達成状況と成果の評価	48
7-1. 事業達成状況の評価方法	48
7-2. 事業の成果の評価方法	48
8. 付録	49

はじめに

人口減少や少子高齢化の進行、国際競争力の激化、大規模災害への対応など、わが国を取り巻く環境が大きく変化する中で、豊かな国民生活や経済の健全な発展、地域活力の向上などを実現するためには、交通機能の確保・向上が必要不可欠となっています。

国においては、平成25年12月に交通政策基本法が公布・施行され、国、地方公共団体、交通関連事業者、交通施設管理者、住民その他の関係者が相互に連携・協働しつつ、まちづくりや観光立国の実現等の観点を踏まえて、交通に関する施策を総合的かつ計画的に推進することとされました。また、26年11月には、交通政策基本法を具体化することを意図し、地域公共交通活性化再生法の一部を改正する法律が施行されたところです。この改正では、公共交通を取り巻く環境が厳しさを増している中で、地域の活力を維持・強化するため、地方公共団体が中心となり、まちづくりと連携して、面的な公共交通ネットワークを再構築することが定められています。具体的には、地方公共団体は、これまでの地域公共交通総合連携計画に代わり、地域公共交通網形成計画を策定することができるとされています。

本町の公共交通の取組については、平成14年9月の名鉄バス名犬バイパス線の廃止に伴い、同年10月から、町が事業主体となって、「とよやまタウンバス」の運行を始めました。当初は1路線のみの運行であったものの、18年10月には、2路線への分割と延長、名古屋栄をはじめとした新規バス停の設置、ダイヤの改正などを行いました。また、19年度からは地域公共交通会議を設置して、民間バス事業者と積極的に連携・調整しつつ、とよやまタウンバスの利便性や地域の公共交通環境の向上に努めてきました。

平成22年度には、第4次総合計画を策定し、まちづくりの基本理念を「小さくてキラリと輝くまちづくり」、まちの将来像を「にぎわいとやすらぎのアーバンビレッジ」と定め、その実現に向けて、「タウンバスを中心とした公共交通の充実」を重点戦略の1つに掲げました。これを踏まえ、平成23年3月に、地域公共交通活性化再生法に基づく地域公共交通総合連携計画（計画期間：平成23年度から26年度までの4年間）を、平成27年3月に改正地域公共交通活性化再生法に基づく第一次豊山町地域公共交通網形成計画（計画期間：平成27年度から31年度までの5年間）を策定し、総合計画に掲げた目標を達成するとともに、よりきめの細かいサービスが充実した公共交通の実現を目指してきました。

こうした中で、近年における人口の増加傾向や国産初となるジェット旅客機（三菱スペースジェット）の本格生産の開始、大型商業施設、あいち航空ミュージアムの開設などにより、町を取り巻く環境は、計画策定時と比べて大きく変化してきており、本町では、第5次総合計画基本計画（計画期間：令和2年度から11年度までの10年間）の策定を進めています。

今回策定した「第二次豊山町地域公共交通網形成計画（豊山町地域公共交通計画）」は、上記の動きを踏まえて、これまでの地域公共交通網形成計画を改定した第二次計画であり、引き続き周辺市町村との連携も考慮しつつ、徒歩・自転車・鉄道・路線バス・タクシー・自動車等の全ての交通手段を一体的なネットワークとして捉え、町が目指す「小さくてキラリと輝くまちづくり」の実現を支えることを目的としています。

1. 現状

1-1. 豊山町の現状

1-1-1. 地勢

本町は名古屋市の北東部に位置し、周囲を名古屋市、北名古屋市、小牧市、春日井市、に囲まれています（図1-1）。

面積は約6km²と県内で最小であり、さらに東部の約3分の1が県営名古屋空港関連の用地で占められています。土地利用では、名古屋空港周辺及び北部市場周辺に産業用地が集中し、町の中央部には宅地が広がり、それ以外では農地・工業用地・宅地が混在しています（表1-1）。町域は海拔7～9mの平坦地で、農地などの緑も適度に残り、都市と自然が共存した良好な環境を有しています。

町内の幹線道路網は充実している一方、鉄軌道線は存在せず、バス交通が公共交通網を形成しています。名古屋市の中心部から10kmの近さにあるため、バスによるアクセス時間が約30分であり、名古屋市のベッドタウンとして機能する一方で、古くからのコミュニティも残っています。

町内には、県営名古屋空港、名古屋市中央卸売市場北部市場、エアポートウォーク名古屋、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、三菱重工業株式会社小牧南工場といった大規模施設が立地しています。平成29年11月にはあいち航空ミュージアム、MRJミュージアムがオープンし、航空機関連の産業観光拠点として期待が高まっています。

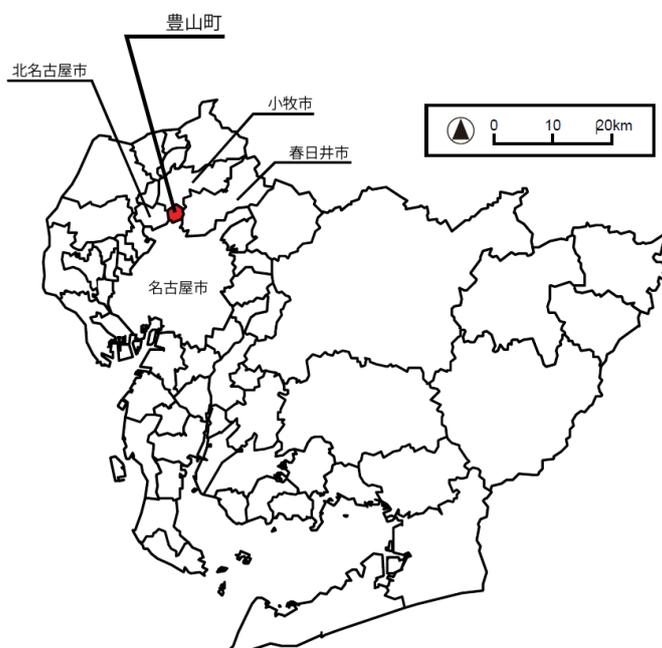


図1-1 本町の位置

表 1-1 地目別土地面積の割合（平成30年）

田		畑		宅地	雑種地	その他	総数
面積	うち調整区域	面積	うち調整区域				
56	33	13	5	209	35	305	618 (ha)
9.1	5.3	2.1	0.8	33.8	5.7	49.3	100 (%)

出典：豊山町統計資料集 平成30年版

1-1-2. 人口

本町の人口は、平成25年5月に15,000人を超え、令和元年10月1日現在では15,739人（男性：8,072人、女性：7,667人）、総世帯数は6,735世帯となっています。本町の推計では、今後10年ぐらいは15歳未満人口割合が微減、15歳以上65歳未満の人口割合が微増、65歳以上人口割合はほぼ横ばいで推移すると見込んでいます。また、令和元年10月1日現在の高齢化率（65歳以上の人口割合）は22.15%であり、愛知県全体の25.0%を下回っています。しかしながら、前年（22.08%）に比べると約0.1ポイント上昇しており、本町の推計では、緩やかなペースで高齢化が進行していくものと見込んでいます（図1-2）。

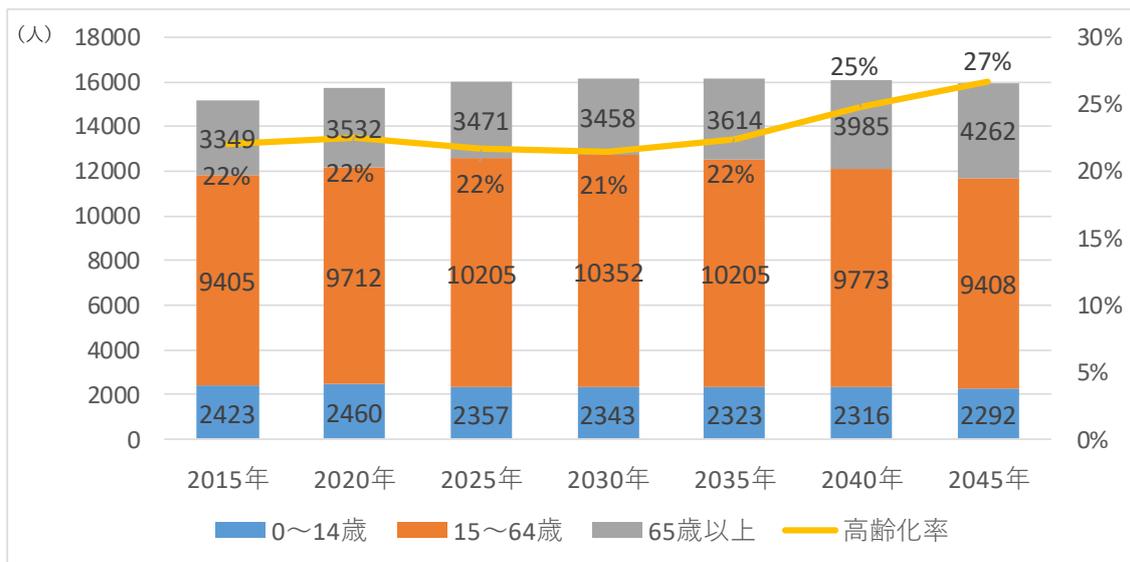


図 1-2 人口及び高齢化率の推移と将来予測

（出典：国立社会保障・人口問題研究所）

1-1-3. 施設分布

町民の買い物先としての商業施設は、町内に4店舗あるほか、町外にも複数あります(図1-3)。また、医療機関は町内に4医院ありますが総合病院はなく、町外に小牧市民病院のほか、済衆館病院(北名古屋市)、春日井市民病院、名古屋市立西部医療センターなどがあります(図1-4)。

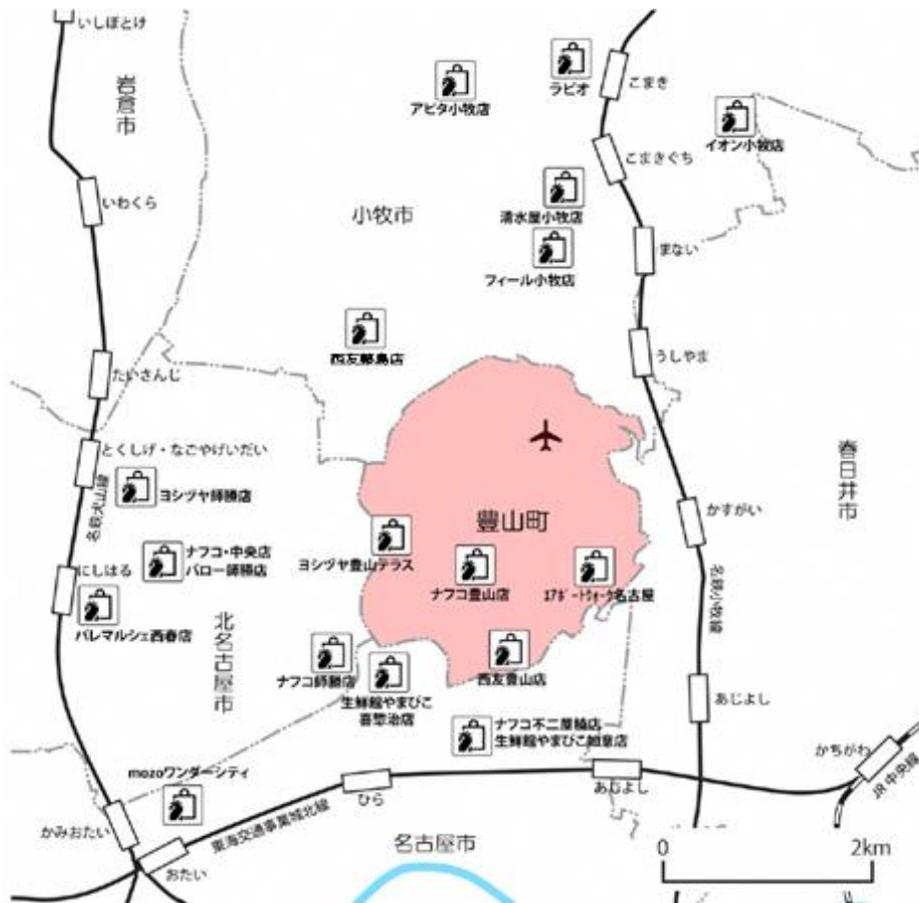


図1-3 周辺の主な商業施設

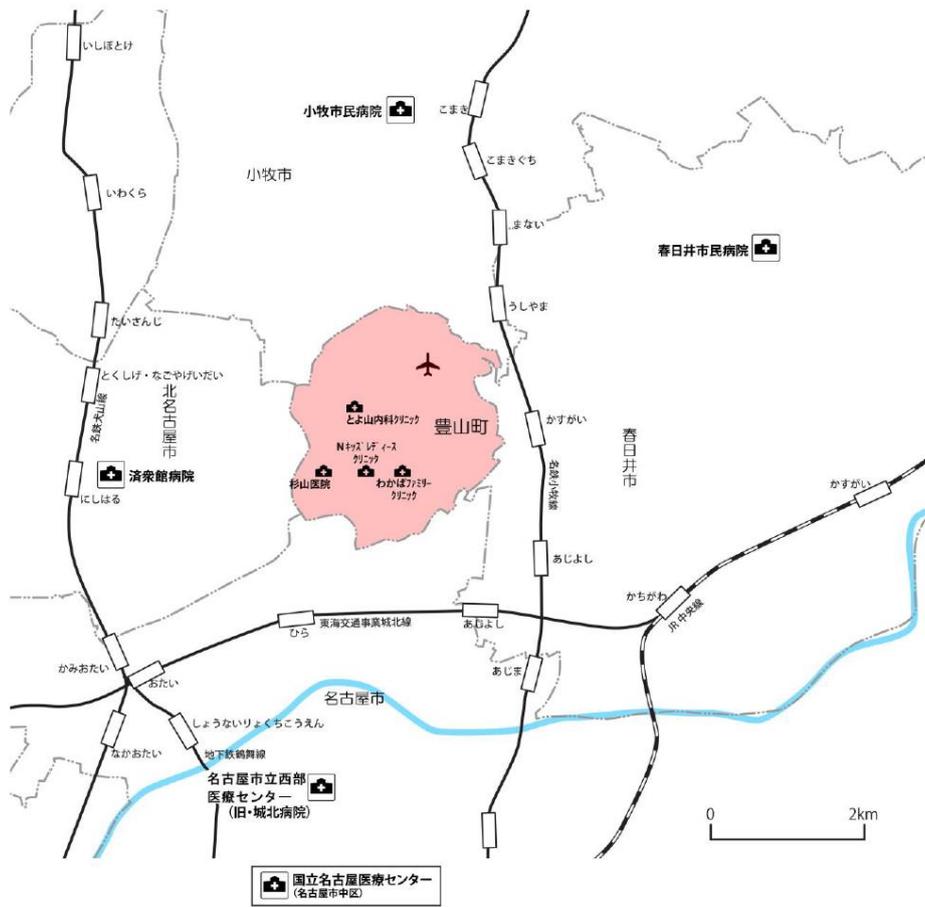


図 1-4 周辺の主な医療機関

1-1-4. 交通手段分担率

図 1-5 は、平成 27 年国勢調査による、自宅外の通勤・通学目的での移動の交通手段分担率です。豊山町は名古屋市と比べて公共交通利用割合が低いことが分かります。豊山町と隣接している名古屋市北区と比べてもこの傾向は明らかです。

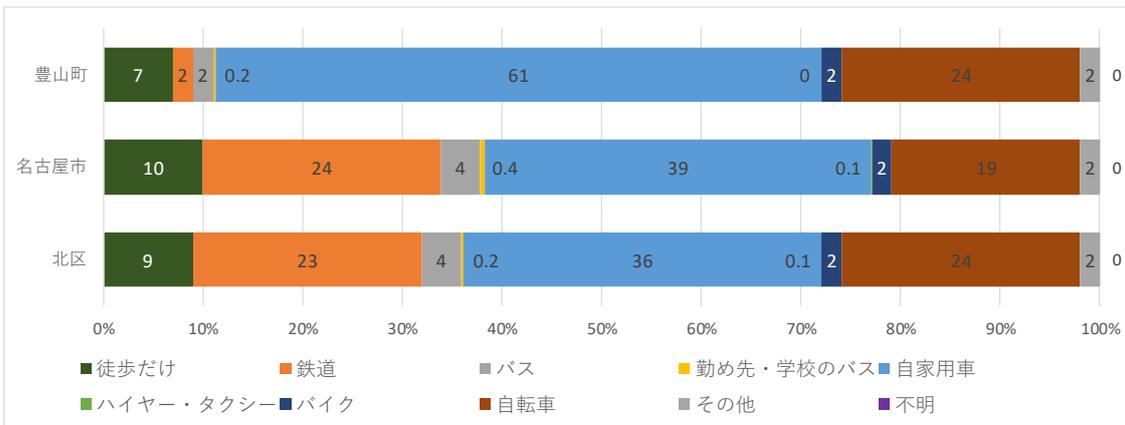


図 1-5 通勤・通学目的移動の交通手段分担率

図1-6と図1-7は、第5回中京都市圏パーソントリップ調査（平成23年度実施）による、人々の全目的の移動の交通手段分担率です。図1-5の結果と同様に、豊山町は名古屋市と比べて公共交通利用割合が低いことが分かります。特に、休日の移動にはほとんど公共交通が使われていません。

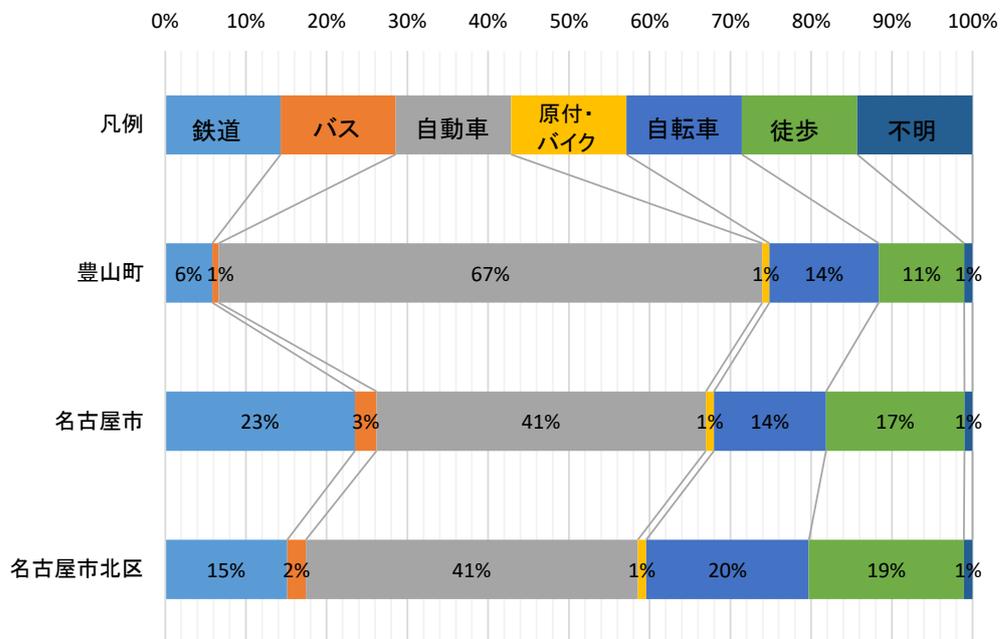


図1-6 第5回中京都市圏PT調査による交通手段分担率（平日）

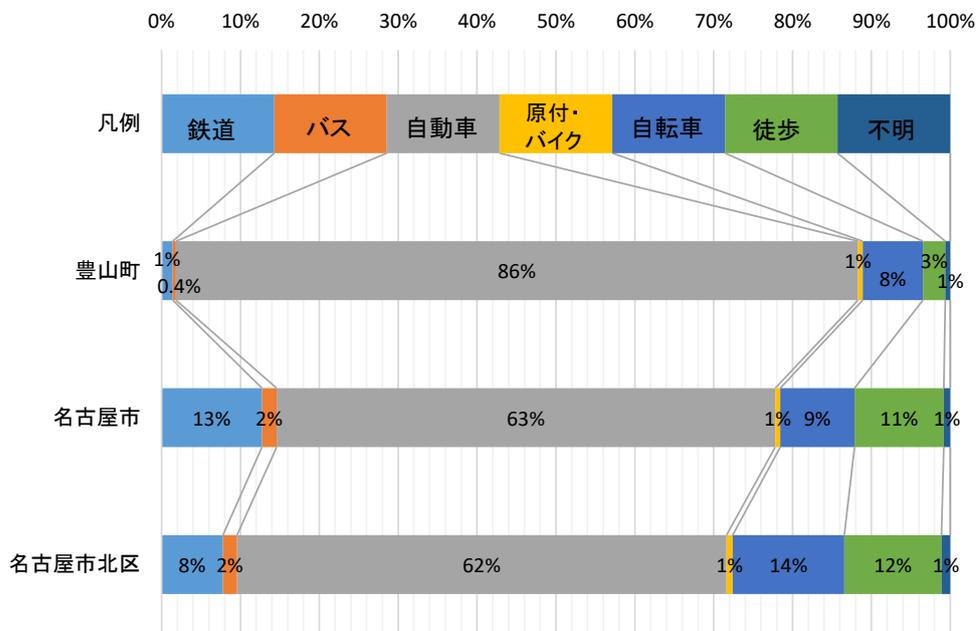


図1-7 第5回中京都市圏PT調査による交通手段分担率（休日）

1-1-5. 通勤・通学目的による流入人口の状況

平成27年国勢調査によると、本町に通勤目的で流入する人口は、名古屋市北区からが最も多く、次いで、北名古屋市、春日井市、小牧市となっています。一方、本町から通勤目的で流出する人口は、小牧市へが最も多く、次いで、名古屋市北区、春日井市、北名古屋市、名古屋市中区となっています（図1-8）。

また、本町から通学目的で流出する人口は、春日井市が最も多く、次いで、名古屋市中村区、名古屋市北区、小牧市及び名古屋市東区となっています。本町には高校や大学がないため、通学目的の流入はほとんどありません（図1-9）。

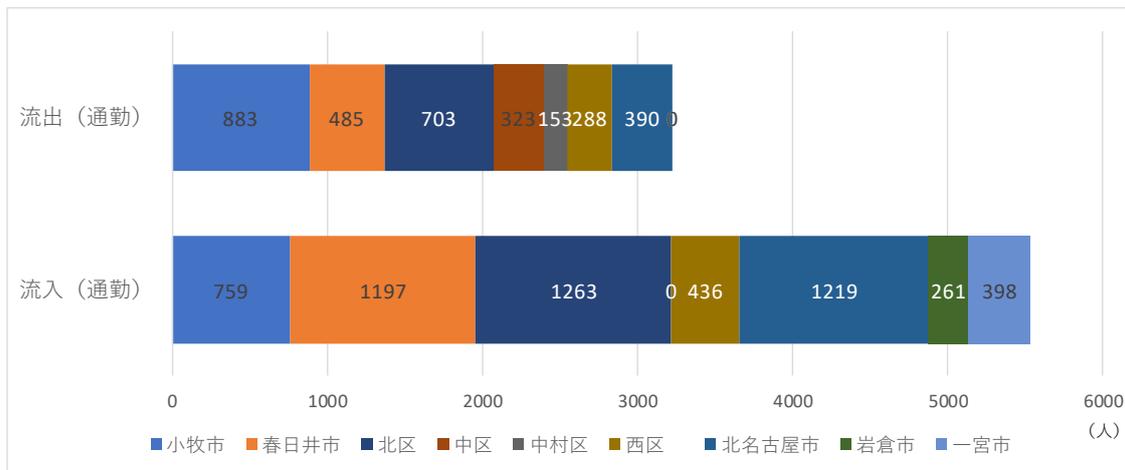


図1-8 通勤目的による流出人口

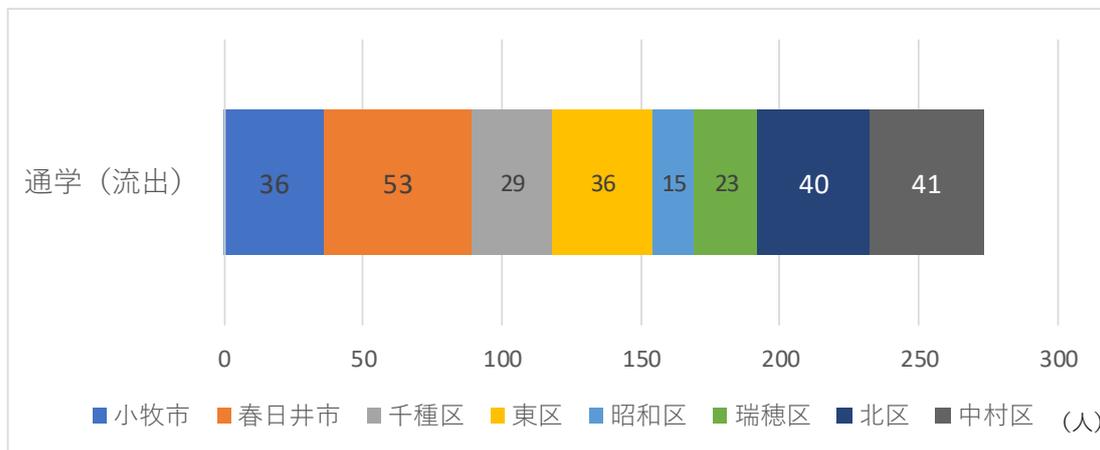


図1-9 通学目的による流出人口

1-2. 豊山町の公共交通概要

1-2-1. バス

(1) 名鉄バス

① 西春・空港線（西春駅⇄名古屋空港）

県営名古屋空港と西春駅（北名古屋市）を結ぶ路線です。

三菱重工業株式会社小牧南工場をはじめとする通勤需要も多く、朝夕には西春駅と県営名古屋空港の間でノンストップ便も運行されています。

利用実績については増加傾向にあり、平成30年8月から令和元年7月までの利用者数は、前年同期に比べて約5.3%増の893,558人となっています（図1-10）。

表1-2 名鉄バス 西春・空港線の運行状況

	時間帯	本数	運行間隔	運賃
平日	午前6時台～午後10時台	40往復 8便*	30分間隔 (昼間時)	100円～340円
土・休日		32.5往復		

本数※朝5便、夕方3便の西春～名古屋空港間のノンストップ便

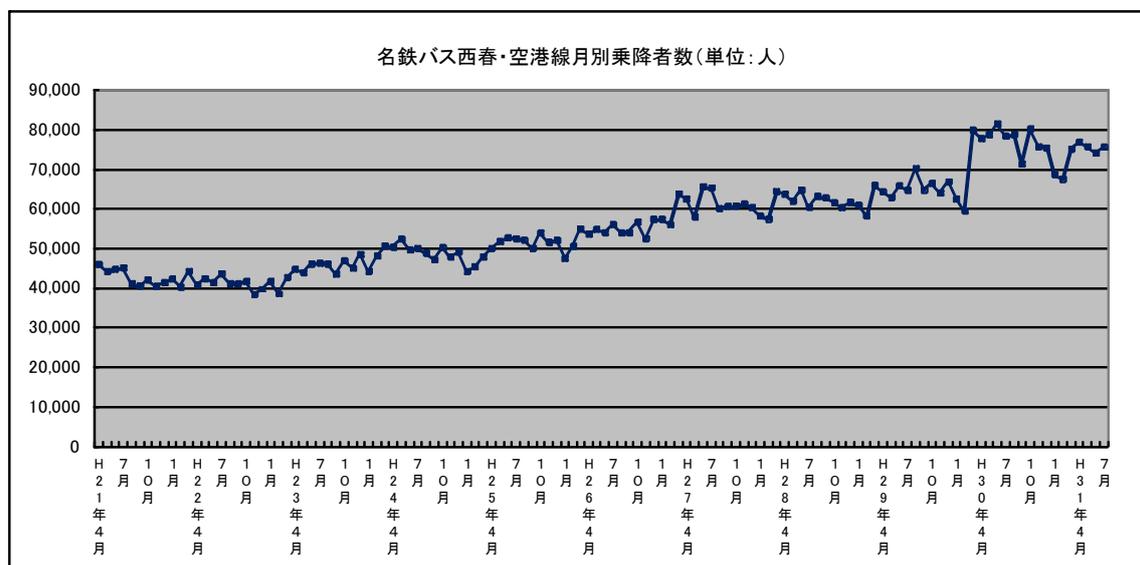


図1-10 名鉄バス西春・空港線月別利用者数

② 県営名古屋空港線（名鉄バスセンター⇄栄⇄名古屋空港・あいち航空ミュージアム）
 平成29年10月1日より運行を開始した名古屋市中心部と名古屋空港を結ぶ空港連絡バスです。

平成30年度の年間利用者数は、84,124人、平成30年8月から平成31年7月までの利用者数は、89,851人となっています（図1-11）。

表1-3 名鉄バス 県営名古屋空港線の運行状況

時間帯	本数	運行間隔	運賃
午前6時台～午後8時台	名駅発13便 空港発12便	1～2便/時間	600円～700円

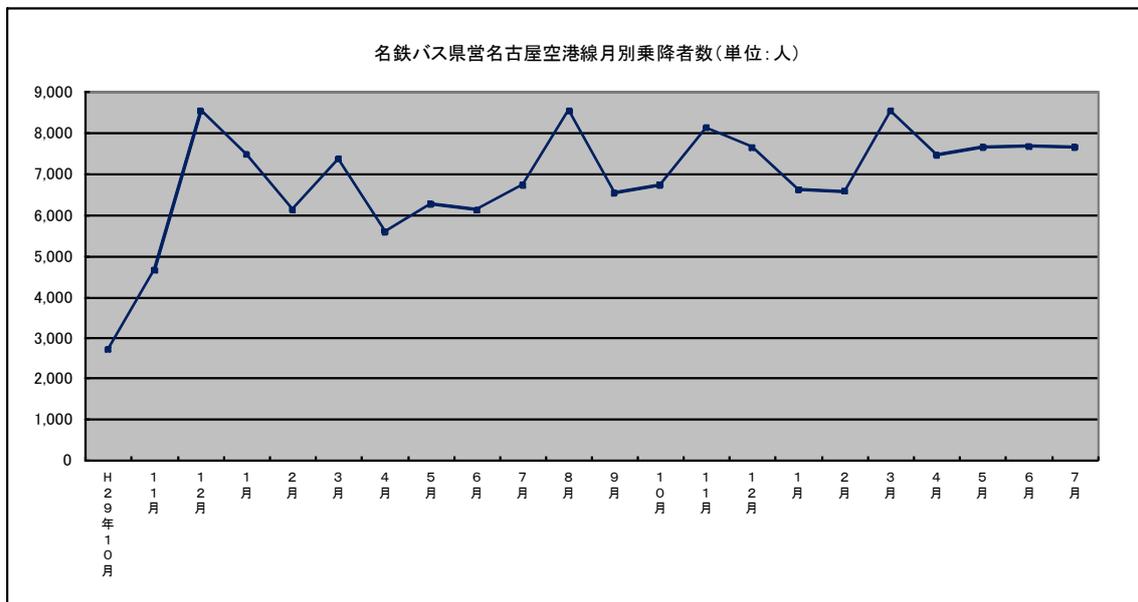


図1-11 名鉄バス県営名古屋空港線月別利用者数

(2) あおい交通

① 名古屋空港直行バス（名古屋駅前⇄県営名古屋空港・勝川駅）

平成17年2月の県営名古屋空港の開港に合わせて運行を開始した名古屋駅前（ミッドランドスクエア前）と県営名古屋空港・勝川駅を結ぶ空港連絡バスです。

平成30年8月から令和元年7月までの利用者数は、前年同期に比べて約8.0%増の572,691人となっています（図1-12）。

表1-4 あおい交通 名古屋空港直行バス（名古屋駅前⇄県営名古屋空港・勝川駅）の運行状況

	時間帯	本数	運行間隔	運賃
平日 土・休日	午前6時台～午後10時台	51便※ ¹	2～5便/時間	100円～ 700円
		37便※ ²	1～3便/時間	
		12便※ ³	1～4便/時間	

本数※1：名古屋駅→あいち航空ミュージアム（エアポートウォーク北）、うち8便は勝川駅行

※2：名古屋空港→名古屋駅

※3：あいち航空ミュージアム（エアポートウォーク北）→名古屋駅



図1-12 名古屋空港直行バス（名古屋駅前⇄県営名古屋空港）月別利用者数

② 名古屋空港直行バス（栄⇄愛知県庁前⇄あいち航空ミュージアム（エアポートウォーク北））

平成29年11月20日より運行開始した、栄とあいち航空ミュージアムを結ぶ空港連絡バスです。

平成30年度の年間利用者数は、15,752人、平成30年8月から令和元年7月までの利用者数は、12,751人となっています（図1-13）。

表1-5 あおい交通名古屋空港直行バス（栄⇄愛知県庁前⇄あいち航空ミュージアム（エアポートウォーク北））の運行状況

	時間帯	本数	運行間隔	運賃
平日 土・休日	午前8時台～午後4時台	5往復	1～4時間に 1便程度（昼間時）	600円～ 700円

本数※あいち航空ミュージアム（エアポートウォーク北）発便は栄→愛知県庁前

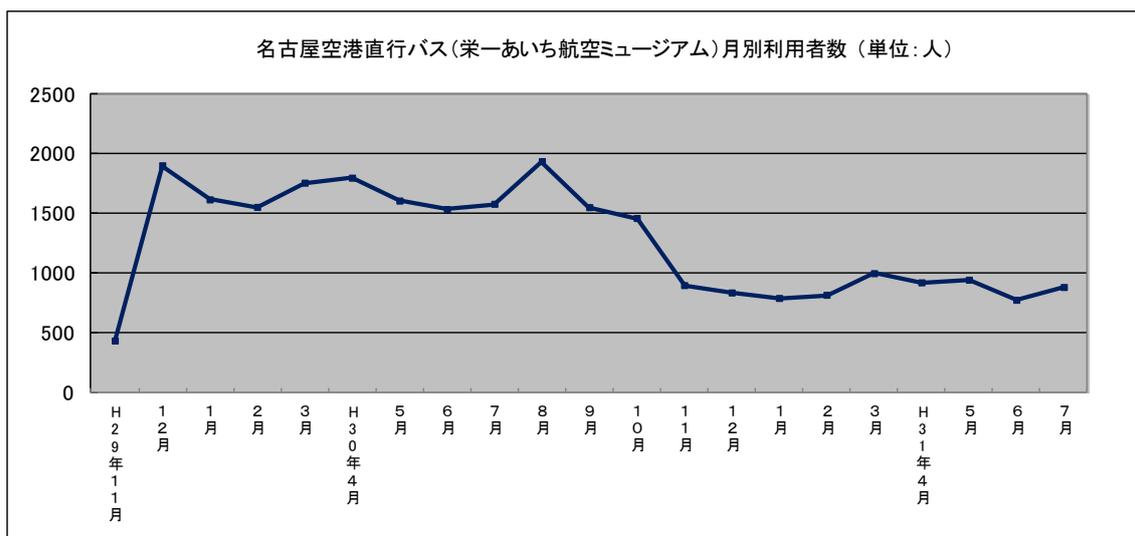


図1-13 名古屋空港直行バス（（栄⇄あいち航空ミュージアム）月別乗降客数

③ 幸田・勝川線（豊山幸田⇔勝川駅前）

県営名古屋空港アクセスバスの一環として、平成23年10月に運行が開始された本町・名古屋空港とJR勝川駅とを結ぶ路線です。19年度末に廃止された名鉄バス勝川・空港線の代替交通の役割も果たしており、生活路線としても利用されています。

平成30年8月から令和元年7月までの利用者数は、前年同期に比べて約8.8%増の80,227人となっています（図1-14）。

表1-6 あおい交通 幸田・勝川線の運行状況

	時間帯	本数	運行間隔	運賃
平日 土・休日	午前6時台～午後10時台	22便 ^{※1} 16便 ^{※2} 21便 ^{※3}	1～3便/時間	100円～ 300円

本数※1：豊山幸田・名古屋空港→勝川駅、うち土・休日は4便運休

※2：勝川駅→豊山幸田・名古屋空港、うち土・休日は3便運休

※3：勝川駅→名古屋空港・エアポートウォーク北

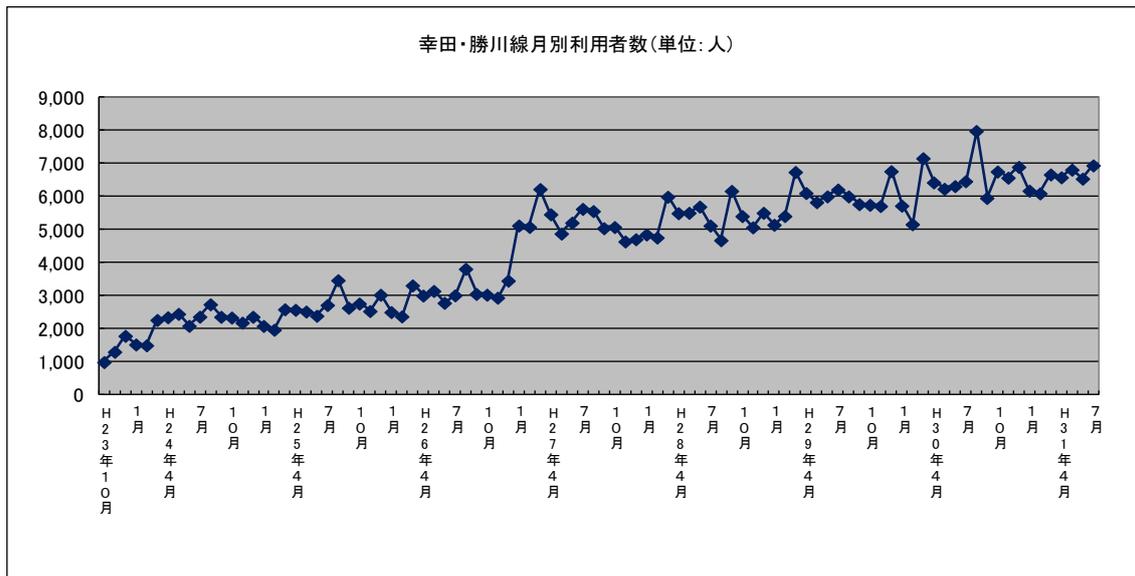


図1-14 幸田・勝川線月別乗降客数

(3) とよやまタウンバス

名鉄バス名犬バイパス線の撤退に伴い、鉄道路線がない本町において、公共交通利便性を向上するために、平成14年10月に運行を開始しました。運行費用の不足分を本町が負担する形で、あおい交通が運行しています。

① 北ルート（小牧市役所前⇄北部市場東）

北ルートは18年度の南北ルート分割により運行をすることになった、小牧市役所前と北部市場東とを結ぶ路線です。平成30年度より1年半のエアポートウォーク名古屋乗り入れ試行運行を経て、令和元年10月から本格運行を行っています。

平成30年8月から令和元年7月までの利用者数は、前年同期に比べて約5.8%増の9,904人となっています（図1-15）。

表1-7 とよやまタウンバス 北ルートの運行状況

	時間帯	本数	運行間隔	運賃
平日	午前7時台～午後8時台	8便	1便/時間	100円～
土・休日	午前9時台～午後4時台	4便	1便/時間	300円

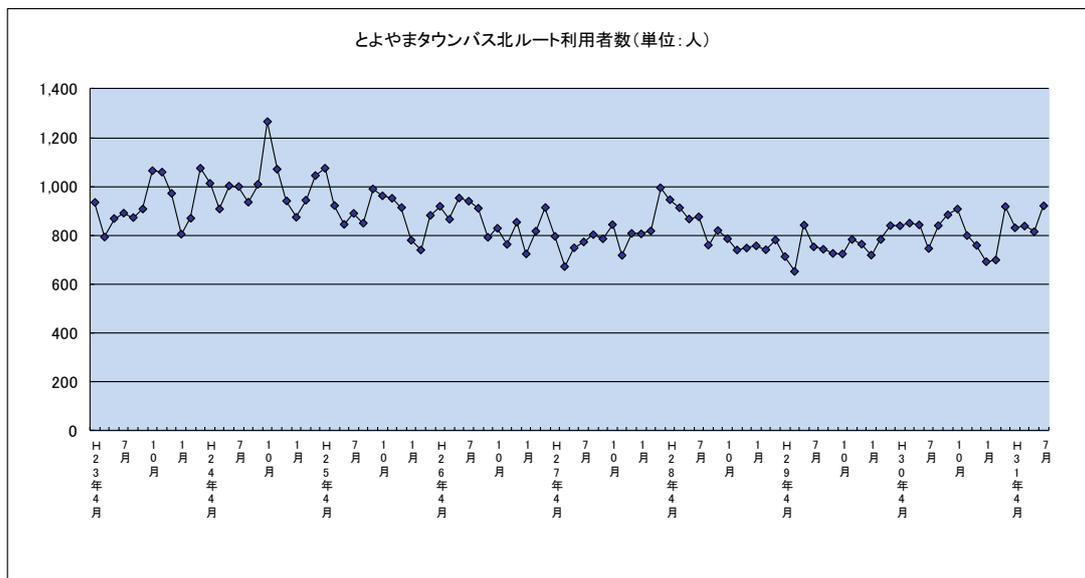


図1-15 とよやまタウンバス北ルート月別利用者数

② 南ルート（航空館 b o o n ⇄ 名古屋栄）

北ルートと同様、平成18年度の南北ルート分割により運行をすることになった、航空館 b o o n と名古屋栄とを結ぶ路線です。

平成30年8月から令和元年7月までの利用者数は、前年同期に比べて約2.8%減の64,276人となっています（図1-16）。

表1-8 とよやまタウンバス 南ルートの運行状況

	時間帯	本数	運行間隔	運賃
平日	午前6時台～午後9時台	15往復	1便/時間	100円～
土・休日	午前9時台～午後6時台	8往復	1便/時間	500円

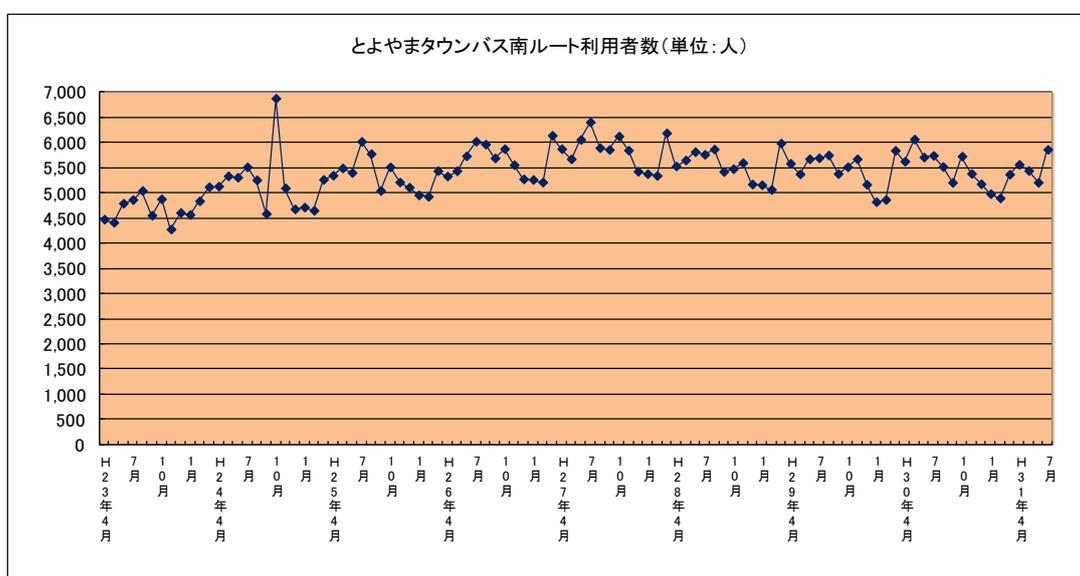


図1-16 とよやまタウンバス南ルート月別利用者数

③ バス車内・主要バス停の無料W i - F i、及びバスロケーションシステム

とよやまタウンバスの車内と主要バス停6カ所（青山東栄、豊山町社会教育センター、豊山町役場、豊山中学校、北部市場東、黒川）、ならびに航空館 b o o n 館内に、平成28年度から無料W i - F i を整備しました。また、平成29年4月からは、バスの現在位置などの運行状況をスマートフォンなどで確認できるバスロケーションシステムの供用を開始しました。

とよやまタウンバス車内W i - F i アクセス回数は、平成29年度～30年度実績では、月平均14回と少なく、利用者への周知が不足していると考えられます。また、バスロケーションシステムへのアクセス回数は、平成29年度～令和元年度にかけての実績値では、1日平均116回、月平均3,527回でした。

(4) 名古屋市営バス

① 黒川11号系統（黒川⇄北部市場）

名古屋市中央卸売市場北部市場が町内に開場した昭和58年3月から、名古屋市営バス黒川11号系統のうち、一部の便が北部市場に乗り入れています。

平成29年3月の1ヶ月間、黒川11号系統（黒川～北部市場）を県営名古屋空港まで延伸する社会実験を行い、本町では延伸に伴う影響を調査しました。影響調査の結果を踏まえ、豊山町地域公共交通会議は社会実験の総合評価を、「安全性や交通環境、円滑な利用などに問題がないことが確認されている。路線が定着すれば社会実験時よりも、交通需要の増大が見込まれ将来性はある。新路線の設定により、公共交通アクセスが充実し、全体の公共交通需要の底上げを図ることが可能となる。一方、既設バス路線から一定の転換が予想され、運賃水準の検討が必要となる可能性がある」としています。

なお、本町と名古屋市との境界付近には、名古屋市営バスの如意車庫前、及び如意住宅前バス停があり、駐輪場が整備されていることもあって、本町の住民が利用しているケースが見られます。

表1-9 名古屋市営バス 黒川11号系統の運行状況

	時間帯	本数	運行間隔	運賃
平日	午前6時台～午後8時台	14便※ ¹	1～2時間に 1便程度 (昼間時)	均一制 210円
		11便※ ²		
土曜日	午前6時台～午後7時台	10便		
休日	午前7時台～午後7時台	9便		

本数※1：黒川→北部市場 ※2：北部市場→黒川

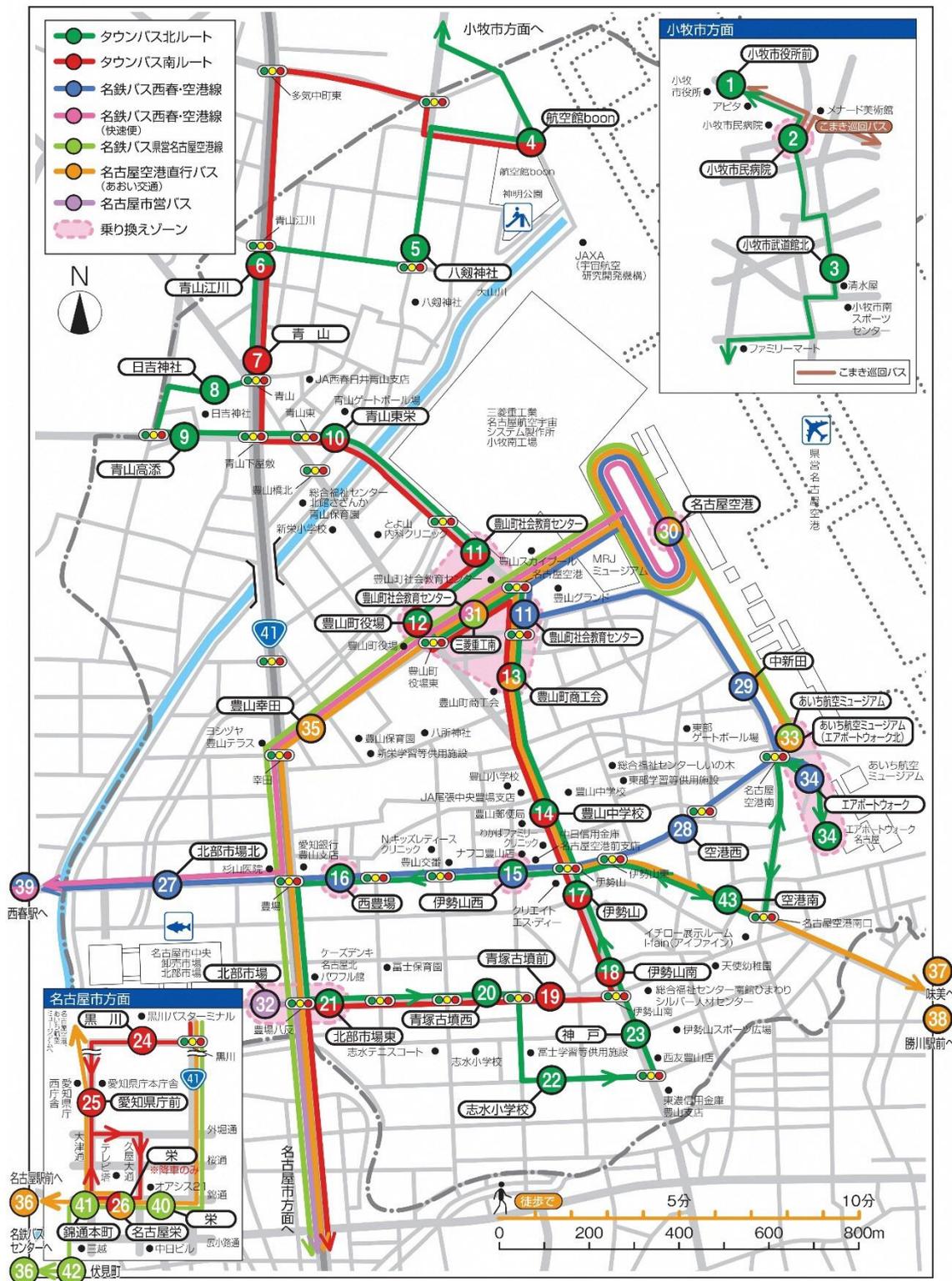


図 1-17 町内のバス路線（令和元年12月1日現在）

1-2-2. タクシー・移送サービス

(1) タクシー

本町は、タクシー交通圏としては名古屋交通圏（本町および名古屋市、瀬戸市、津島市、尾張旭市、豊明市、日進市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、あま市、長久手市、東郷町、大治町、蟹江町、飛鳥村）に含まれます。

町内のタクシー乗り場は、県営名古屋空港とエアポートウォーク名古屋にあり、名古屋空港の乗り場にはタクシーが常駐しています。また、タクシー乗り場以外の所からタクシーを利用するときは、北名古屋市又は名古屋市のタクシーを呼んで利用する方法が一般的なようです。

本町では、高齢者の生活支援、社会参加の促進や閉じこもりの防止のため、町在住の要介護者や障がい者等に対して、「タクシー利用料金補助事業」を実施しています。これは、医療機関への通院、買い物、その他の日常生活に必要なタクシー利用料金の初乗料金と送迎料金を補助するもので、要介護者は年間24回・障がい者は48回まで利用可能となっています。近年、利用件数は増加傾向にあり、平成30年度の利用実績は、要介護者815件、障がい者1,724件となっています。

また、高齢者の交通事故減少を図るため、自主的に運転免許証を返納した満65歳以上の町民に対して、タクシー利用券の交付を実施しています。これは、タクシー利用料金の初乗料金と送迎料金を補助するもので、タクシー利用券10枚を交付し、交付日から1年間利用可能となっています。平成30年度の交付実績は、10人となっています。

(2) 移送サービス

社会福祉法人豊山町社会福祉協議会によって、総合福祉センターしいの木（社会福祉協議会所在地）からの送迎サービスが行われています。これは、町在住で社会福祉協議会の賛助会員（2口以上）の世帯で、自力で通院できない要介護者・要支援者・障がい者等に対して、総合福祉センターしいの木から半径1.5kmを超え5km未満の医療機関への送迎を行うものです。利用可能時間は午前8時45分から午後4時30分までで、賛助会員2口の加入で年間12回、3口の加入で18回まで利用可能となっています。

近年、利用件数は減少傾向にあり、平成30年度の実績は323件となっています。

なお、本町には、福祉有償運送を実施しているNPO等の団体はありません。

1-2-3. 名古屋空港

名古屋空港は、平成17年2月17日に国管理空港（第二種）から、コンピューター航空やビジネス機など、わが国初の本格的な小型航空機の拠点となる都市型総合空港（県営名古屋空港）として新たに開港しました。株式会社フジドリームエアラインズ（FDA）が平成22年10月に新規就航し、令和元年11月時点で8路線（青森、いわて花巻、新潟、福岡、熊本、高知、山形、出雲）を運航しています。

平成30年8月から令和元年7月までのFDA利用者数は、前年同期に比べて約5.2%増の928,401人となっています（図1-18）。

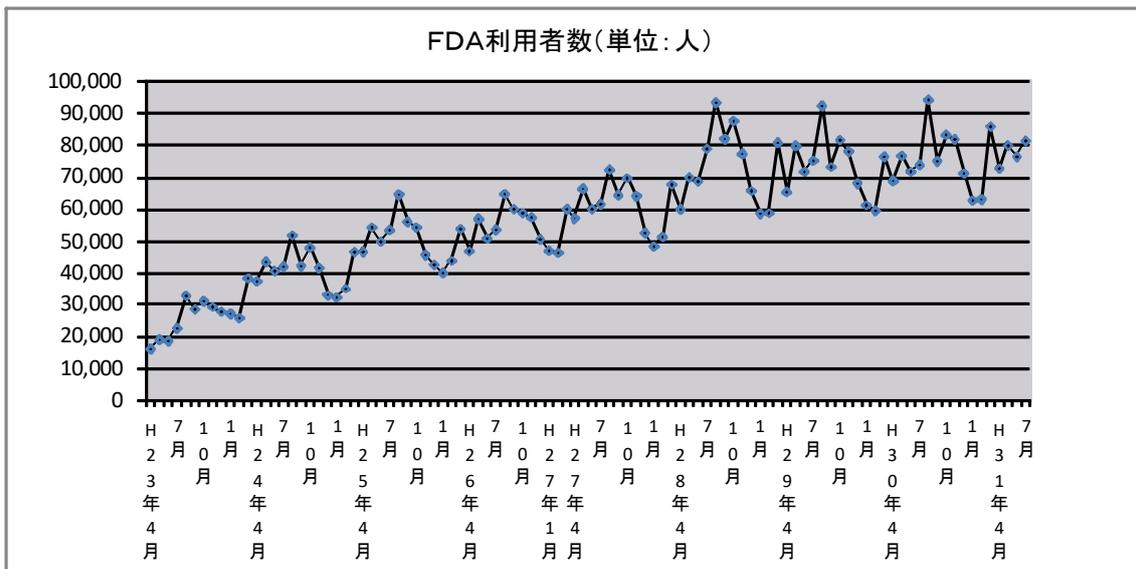


図1-18 FDA利用者数

1-2-4. 近接自治体のバス路線

本町に隣接する北名古屋市では、きたバス・名鉄バス（西春・空港線）、小牧市では、こまき巡回バス・あおい交通ピーチバス・あおい交通桃花台バス・名鉄バス、春日井市では、かすがいシティバス・あおい交通桃花台バス・あおい交通空港バス・名鉄バスがそれぞれ運行されており、本町の住民の利用も一部で見られます。

近接自治体のコミュニティバスの概要は表1-10のとおりです。

表1-10 近接自治体のコミュニティバス

名称（市町村）	路線	1日当り便数	運賃	主な停留所
きたバス （北名古屋市）	5路線 （朝・夕便） 5路線 （昼便）	2～7便	1乗車100円 ※中学生以下は無料。身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者とその付き添い者1名は無料。	西春駅、済衆館病院前、健康ドーム
こまき巡回バス （小牧市）	19路線	10～13便	大人1日200円 小学生1日100円 ※高齢者（65歳以上）、幼児、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者とその付き添い者1名は無料。 ※ピーチバス、名鉄バス（小牧市内を起終点とする区間）の定期券所持者は無料。ピーチバスからの乗継券所持者はどのコースも往復無料。	小牧駅、小牧市民病院、小牧市役所前、パークアリーナ小牧、総合運動場前（市民球場）、市民四季の森
かすがいシティバス （春日井市）	4路線	片道 5～10便	1乗車大人200円 小人100円 ※高齢者（75歳以上）・運転免許返納者・妊婦100円 （それぞれ事前の登録が必要） ※未就学児・障がい者（手帳所持者）とその付添人1名までは無料。	勝川駅、味美、春日井市民病院、総合体育館前

2. 第一次豊山町地域公共交通網形成計画の実施状況

2-1. 事業の実施状況

	事業の内容	実施目標年度	現時点での状況	今年度の予定	達成度
人 に や さ し い 安 全 な 交 通	1 既存路線の維持と国の事業の積極的な活用（実施主体：町・地域公共交通会議・バス事業者）				
	(1) 既存路線の継続運行	毎年度	既存路線は継続して運行。	今後も継続運行に努める。	達成
	(2) 地域公共交通確保維持改善事業の活用	国のスケジュールに合わせて	あおい交通「幸田・勝川線」において活用。	あおい交通「幸田・勝川線」において活用。	達成
	(3) 地域公共交通再編事業の活用	必要に応じて	現時点で再編事業は実施していない。	実施予定なし。	未着手
	2 地域公共交通会議の開催（実施主体：町・地域公共交通会議）				
	(1) 地域公共交通会議の開催	毎年度	3回程度開催。	今後も継続して年3回程度開催予定。網形成計画の策定。	達成
	3 バスや関連施設の充実				
	(1) バスの安全対策やバリアフリー化（実施主体：町・バス事業者・施設管理者）				
	・ バス車両の交通安全対策、ヒューマンエラーによる事故防止対策の徹底	随時実施	あおい交通では指差し確認を励行し、タウンバス全車にドライブレコーダーを搭載（H29年3月）した。名鉄バスでは一般路線バス全車にドライブレコーダーを搭載、左折一旦停止を励行、会議にて交通安全の事例を周知。	今後も継続して実施。	達成
	・ タウンバス北ルートバス車両や施設のバリアフリー化	随時実施	南北ルートの車両はリフト付。その他、一般路線バスもバリアフリー化済。	要整備箇所を把握し可能な限り対応。	達成
	(2) バスの待合環境の整備（実施主体：町・バス事業者・施設管理者）				
	・ ベンチやバス停の照明施設の整備、公共交通利用案内やサインの充実	28年度～	公共交通マップにQRコード掲載。とよやまタウンバスのバス停にQRコードを表示。+QRコードでわかる情報。タウンバスの栄・県庁のバス停をソーラー照明付きに改修（H29年3月）。	各事業者において適宜実施。長期的な視点で取り組む。	一部達成
	・ バスの待合や案内、乗車券の販売など、社会教育センターのターミナルとしての機能強化	28年度～	案内板について、調整等を行ったが、実施には至っていない。	関係機関と調整・協議を行う。長期的な視点で取り組む。	未達成
	4 高齢者等の移動範囲の拡大				
(1) バス停勢圏の拡大や利便性の向上（実施主体：町・バス事業者）					
・ バス路線の充実や道路ネットワークの整備などを通じたバス停勢圏の拡大や利便性の向上	29年度～	利便性の向上に向けて、タウンバス北ルートのエアポートウォークへの乗り入れ試行運行を実施した。	バス停勢圏の狭い75歳以上を主なターゲットとして、検討する。	一部達成	
(2) 利用しやすい運賃体系の構築（実施主体：町・バス事業者）					
・ 利用者の意向や費用対効果を踏まえたわかりやすく利用しやすい運賃体系の構築	30年度～	未実施	利用者の意向や費用対効果を見極めつつ分かりやすく利用しやすい運賃体系を検討する。	未着手	
(3) タクシーや移送サービスとの連携（実施主体：町・タクシー事業者・社会福祉協議会など）					
・ これまでの施策の継続実施と名古屋交通圏タクシー活性化協議会の「地域計画」と連携した取組等、タクシーの特性を活かした輸送サービスや移送サービスの取組検討	30年度～	町内在住の要介護者・要支援者や障害者等を対象としたタクシー利用料金助成や社会福祉協議会による通院送迎サービスなど既存施策の継続実施。町内在住で運転免許証を自主返納した満65歳以上の者を対象に、とよやまタウンバス回数券、又はタクシー利用券の交付を平成30年4月から開始した。	名古屋交通圏タクシー活性化協議会の「地域計画」と連携した取組を検討。	一部達成	
(4) デマンド交通の導入（実施主体：町・バス事業者・デマンド交通事業者）					
・ とよやまタウンバスの北ルート周辺地域を中心としたデマンド交通の導入検討	30年度～	平成31年2月27日に県営名古屋空港構内道路において自動走行実証実験を実施。	対象となる利用者や需要予測、タクシーや移送サービスをはじめ他の公共交通との役割分担の検討を行い、長期的な視点でデマンド交通導入必要性の検討を行う。	一部達成	

ま ち の 機 能 や 魅 力 を 高 め る	5 バスの利便性の向上				
	(1) とよやまタウンバス南北ルートの改善や見直し（実施主体：町・バス事業者・商業施設や医療機関など）				
	とよやまタウンバスの南北ルートにおける利用者ニーズに対応した改善や見直し	29年度～	住民からのエアポートウォークへの乗り入れ要望、並びに、あいち航空ミュージアムと航空館b o o nの連携を図るため、北ルートについて、エアポートウォークへの乗り入れ（1年間の試行）を開始した。加えて、延伸の宣伝・周知を目的にエアポートウォーク方面行の町内バス停裏（青山地区）に「エアポートウォーク行き」「時間」「料金」を表示したステッカーを張った。	北ルートにおける「エアポートウォーク」への延伸については、試行期間を延長し町内の他路線への影響について調査し、本格運行に向けて検討する。 また、北ルート「APW」行き他のバス停（青山地区を除く）についても、同様にステッカーを張ることで周知、利用促進を図る。 タウンバスのPR用チラシ・ポスターを作成し、沿線施設等に配置し、利用促進を図る。	一部達成
	(2) バスの利用環境の改善・充実（実施主体：町・バス事業者・検索サイト事業者）				
「地域協働推進事業」の取組実施及びQRコードの活用やバスロケーションシステムなど、新たな利用環境の改善・充実の検討	27年度～	平成28年度に地方創生加速化交付金により、とよやまタウンバス車内及びバス停にwi-fi環境を整備し供用開始済み。バスロケーションシステムは平成29年3月末に整備事業が完了し、4月1日より供用開始済み。	バスロケーションシステムは、平成29年4月1日供用開始済み。適切に運用を行う。	達成	
(3) 新しい乗車サービスの導入（実施主体：町・バス事業者）					
定期券を始めとした券種や優待制度など、新しい乗車サービスの導入検討	30年度～	未実施	引き続き、バス事業者と情報収集・検討を行い、長期的な視点で取り組む。	未着手	
とよやまタウンバスを始め町内を運行するバス路線でのIC乗車カードの検討	30年度～	名鉄バス、名古屋市営バスにおいてIC乗車カードは既に導入済み。	引き続き、バス事業者と情報収集・検討を行い、長期的な視点で取り組む。	未達成	
利 便 性 の 高 い 交 通	6 産業活動や地域間交流を支える交通環境の整備				
	(1) MRJ関連の通勤者や見学者のアクセス確保（実施主体：町・バス事業者）				
	とよやまタウンバス、名鉄バス、あおい交通の連携・協力したバス路線の充実	27年度～	平成27年7月31日に名鉄バス、8月5日にあおい交通へ、県営名古屋空港への公共交通アクセスの強化・拡充に関する要望申入れ。 名鉄バスとあおい交通が、名古屋駅・栄と県営名古屋空港・あいち航空ミュージアムを結ぶ新規路線の設置、既存路線の拡充を実施（名鉄バスは平成29年10月に県営名古屋空港線の運行を開始し、11月のあいち航空ミュージアムのオープンに合わせ延伸。あおい交通は平成29年11月から）。	今後も連携・協力しバス路線の充実に取り組む。	一部達成
	北部市場まで乗り入れている名古屋市営バスの延伸等についての要請	27年度～	平成27年7月29日に名古屋市交通局へ県営名古屋空港への公共交通アクセスの強化・拡充に関する要望申入れ。平成29年3月に1箇月間の社会実験を実施。併せて、豊山町内におけるバスネットワークに与える影響について、調査・分析を実施。公共交通会議での評価を経て、平成30年2月に豊山町より名古屋市に本格運行を要請。	今後も周辺自治体やバス・タクシー関係事業者と連携・協力しながら豊山町における公共交通ネットワークの充実に努める。	達成
(2) 近接市町のバス路線との連携（実施主体：町・近接市町・バス事業者）					
きたバス（北名古屋市）、こまき巡回バス（小牧市）、かすがいシティバス（春日井市）等との連携に向け、各バス路線の情報提供やPR、ダイヤ調整や待合所の整備、乗り継ぎ割引などの検討	30年度～	町ホームページからこまき巡回バス（小牧市）へのリンクを完了。きたバス、かすがいシティバスへのリンク済み。	引き続き、バス事業者と情報収集・検討を行い、調整可能な事業について検討する。	未達成	
環 境 に や さ し い 交 通	7 クルマに過度に依存しない交通行動の促進				
	(1) 公共交通マップ等の作成・配布（実施主体：町・地域公共交通会議・町民討議会議）				
	住民や利用者等の意見を踏まえ、よりわかりやすい公共交通マップを作成し、公共交通のPRとして町民や本町への通勤者、新規転入者などに配布	随時実施	名鉄バス、あおい交通の新規路線設置・既存路線拡充を反映した公共交通マップ（平成31年4月1日現在分）を作成し、配布中。	今後も、各バス事業者のダイヤ改正に合わせ、10月末及び3月末の2回作成・配布予定。	達成
	地域公共交通会議や町民討議会議などの構成員の協力を得て、公共交通を利用したお出かけプランを提案、町民が公共交通を使っていきたいと思う働き掛け	随時実施	お出かけプランについては、本町へのアクセス方法やウォーキングマップなどの情報が盛り込まれた「見どころマップ」を平成27年度に作成し、各所に配布した。	見どころマップをはじめ町内施設等をPRするパンフを活用し引き続きPRに努める。	一部達成
(2) バスの乗り方教室や出前講座等の開催（実施主体：町・地域公共交通会議・町民討議会議）					
高齢者や主婦、子ども、地域団体などを対象とした「バスの乗り方教室」や出前講座の開催、環境にやさしい公共交通やバスの利用促進、町民討議会議などを活用した公共交通やバスに関する意見交換	随時実施	平成28年5月12日に豊山町心身障害者福祉協会の会員およそ30人を対象に出前講座「公共交通機関の使い方」を開催。 平成29、30年度は要望がなく開催していない。	引き続き教育委員会が所管する「出前講座」のメニューに登録するとともに高齢者や主婦、子ども、地域団体など各種団体に対し、乗り方教室（出前講座）の開催について働きかけを行う。	達成	

環 境 に や さ し い 交 通	(3) 利用促進イベントやキャンペーンの実施 (実施主体: 町・地域公共交通会議・町民討議会議)				
	環境フェスティバルや健康福祉フェスティバル、交通安全教室など既存のイベントやキャンペーンと連携したバスを中心とする公共交通の利用促進	随時実施	平成30年度は、環境フェスティバル、「旅祭り名古屋2019」において、マップ等を配布し、豊山町の公共交通をPRした。	既存のイベントやキャンペーンにおいて公共交通をPRする。	達成
(4) 広報誌やホームページ等による公共交通のPR (実施主体: 町)					
	「広報とよやま」や「とよやまチャンネル」にバスをPRする記事やコーナーを設け、バスや公共交通に対する町民の意識啓発と利用促進の実施	随時実施	広報とよやまや町ホームページにて、平成30年度には北ルートのエアポートウォークへの乗り入れの試行運行についての周知を行うとともに公共交通のPR記事を掲載した(平成30年度4月号、1月号)。	今後も広報とよやまや町ホームページ、チラシ、ポスター等にて公共交通のPRをしていく。	達成
	町のホームページにおける公共交通関連情報の充実、スマートフォン版の作成	随時実施	ホームページ(スマートフォン版含む)での公共交通関連情報を更新。	適宜更新を行う。	達成
8 自転車・徒歩で移動できる交通環境の整備					
(1) 安全で魅力的な自転車・歩行空間の整備 (実施主体: 町)					
	自転車道や緑道・散策路などの整備、自転車マップやお出かけマップなどの作成の検討、レンタサイクルの導入検討	27年度～	「見どころマップ」を平成27年度に作成済み。	レンタサイクルの導入検討については、長期的な課題とし、情報収集を行う。	一部達成
(2) バスと自転車との乗り継ぎ環境の整備 (実施主体: 町)					
	主なバス停周辺に自転車駐車を整備、自転車や徒歩からバスに乗り継ぐための有用な情報提供	28年度～	「見どころマップ」を関係機関・住民に配布・PRすることにより、バス・自転車利用の促進を図った。	自転車駐車場の整備については、長期的な課題とし、情報収集・検討を行う。	一部達成

2-2. 数値目標の達成状況

第一次計画では、自動車に頼らなくても、誰もが、安全・安心で便利に、行きたい所に行ける地域公共交通を実現するため、本計画では、「安全・安心」、「利便」、「環境」をキーワードに、①人にやさしい安全な交通、②まちの機能や魅力を高める利便性の高い交通、③環境にやさしい交通に関連する具体的な事業に取り組んでいくことを、計画の目標としました。その具体的な数値目標については、第4次総合計画後期基本計画の公共交通に係る目標指標と、これまでの「総合連携計画」に掲げる生活保障の指標に基づき、平成31年度に、①公共交通に対する住民満足度20%、②バス停勢圏人口カバー率*95.0%、③とよやまタウンバス年間利用者数94,000人、④とよやまタウンバス運行負担率50%を目指していました。

第一次計画策定前の平成25年度と比較して、平成30年度ではいずれの数値目標においても改善の傾向が見られますが、目標値には至っていません（表2-1）。

表2-1 第一次豊山町地域公共交通網形成計画の目標指標と目標値・現状値

目標指標	単位	目標値	平成25年度	現状値 (平成30年度)
①公共交通に対する住民満足度	%	20.0	14.1	15.7 <small>(満足・やや満足と回答した数)</small>
②バス停勢圏人口カバー率	%	95.0	91.9	93.6 <small>(バス停は令和元年12月時点)</small>
③とよやまタウンバス年間利用者数	人	94,000	74,990	75,126
④とよやまタウンバス運行負担率	%	50.0	60.5	58.5

*運行負担率は、数値が小さくなることが望まれる指標です(運行負担率=運行負担金/定額経費)

【バス停勢圏人口カバー率の算出方法について】

第一次計画におけるバス停勢圏人口カバー率の算出に用いたデータ、および算出方法が不明なため、現状値（令和元年12月時点）を以下のデータ・方法により算出しました。

<使用データ>

- ・国土数値情報「バス停留所」（平成22年作成）をもとに平成25年時点で改変
- ・国土数値情報「バス停留所」（平成22年作成）をもとに令和元年12月時点で改変
- ・平成22年国勢調査「4次メッシュ（500mメッシュ）男女別人口総数及び世帯総数」
- ・平成27年国勢調査「4次メッシュ（500mメッシュ）その1人口等基本集計に関する事項」

<算出方法>

- （1） 上記データを基に、平成25年度と現状値のバス停勢圏人口カバー率を算出しました。
 - ・平成25年度：86.9%、現状値（令和元年12月時点）：88.5%
- （2） （1）で求めた値の変化率を算出し、第一次計画の値に当てはめて現状値を算出します。
 - ・平成25年度から現状値（令和元年12月時点）の変化率：1.86%

*バス停勢圏人口カバー率：バス停から300m範囲内の人口カバー率のこと。

3. 豊山町の公共交通の現況及び町民等の意向の整理

3-1. 公共交通に関する調査結果に基づく現況

本町では、平成29年2～4月の間、名古屋市営バス黒川11号系統（黒川～北部市場）を県営名古屋空港まで延伸する社会実験に伴う影響の調査を主目的としたバス乗降調査、OD調査、バス利用者アンケート調査を実施しました。また、令和元年7月には、とよやまタウンバス北ルートをエアポートウォーク名古屋に乗り入れする実証運行による影響を調査するために、北ルートで追加のOD調査を行いました。

ここでは、その主な結果から本町の公共交通の現況を次のとおりにまとめます。

3-1-1. 乗降調査

名鉄バス西春・空港線と、あおい交通名古屋空港直行バスの2路線について、平成29年2月～4月のバス停別乗降者数を各交通事業者から提供してもらい、利用実態を把握しました。

(1) 名鉄バス西春・空港線

- ・平日は、西春駅～名古屋空港、西春駅～豊山町社会教育センター間の利用が主であり、空港利用者と三菱重工通勤者による利用と考えられます。
- ・休日は西春駅～エアポートウォーク間の利用が多く、買い物・娯楽目的と考えられます。

(2) あおい交通名古屋空港直行バス

- ・2月～4月ともに名古屋～名古屋空港間、勝川～名古屋空港間の移動が主ですが、豊山町内では「三菱重工南」の利用者も比較的多くなっていました。

3-1-2. OD調査

とよやまタウンバス南ルート（平成29年3月20日・23日・24日、4月21日・30日）と、北ルート（令和元年7月28日・31日）について、バス利用者の乗車バス停と降車バス停を記録するOD調査を行いました。

(1) とよやまタウンバス南ルート

① 乗降人数

- ・平日は、「北部市場東」「黒川」「名古屋栄」で乗降人数が多く、豊山町内では「青山東栄」で多くなっていました。
- ・休日は、豊山町内では「北部市場東」「青塚古墳前」の乗降人数が比較的多くなっていました。

② OD集計結果

南ルート【3月23日(木)】上り																南ルート【3月23日(木)】下り																		
乗車	降車															合計	乗車	降車															合計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
	航空館boon	青山江川	青山	青山東栄	豊山町社会教育センター	豊山町役場	豊山町商工会	豊山中学校	伊勢山	伊勢山南	青塚古墳前	北部市場東	黒川	愛知県庁前	名古屋栄		名古屋栄	愛知県庁前	黒川	北部市場東	青塚古墳前	伊勢山南	伊勢山	豊山中学校	豊山町商工会	豊山町役場	豊山町社会教育センター	青山東栄	青山	青山江川	航空館boon			
1	航空館boon														1	2	3	15	名古屋栄			25	4	3	1	2	7		2	1	1	2	48	
2	青山江川												1		2	3	14	愛知県庁前			6				2	2	3	1			1	15		
3	青山												2		2	4	13	黒川			6	5	1	1		1	4	1	3	1	2	25		
4	青山東栄													1	1	3	12	北部市場東																
5	豊山町社会教育センター													2	3	5	11	青塚古墳前																
6	豊山町役場									1				5	1	4	10	伊勢山南																
7	豊山町商工会												1	2	2	9	伊勢山																	
8	豊山中学校												1	1	4	8	豊山中学校																	
9	伊勢山												1		5	7	豊山町商工会																	
10	伊勢山南												1	2	1	6	豊山町役場																	
11	青塚古墳前												4		10	5	豊山町社会教育センター																	
12	北部市場東												11	1	23	3	青山東栄																	
13	黒川															4	青山																	
14	愛知県庁前															2	青山江川																	
15	名古屋栄															1	航空館boon																	
合計										1	1				30	12	58	102				37	9	4	2	4	1	13	4	6	2	1	5	88

- ・23日平日上りでは、北部市場東→名古屋栄(23人/日)が最も多く、次いで北部市場東→黒川(11人/日)、青塚古墳前→名古屋栄(10人/日)の順になっていました。豊山町内の乗車は、北部市場東(36人)と青塚古墳前(14人)で比較的多くなくなっていました。
- ・23日平日下りは、名古屋栄→北部市場東(25人/日)が突出して多く、次いで名古屋栄→豊山町役場(7人/日)の順となっています。

南ルート【3月24日(金)】上り																南ルート【3月24日(金)】下り																		
乗車	降車															合計	乗車	降車															合計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
	航空館boon	青山江川	青山	青山東栄	豊山町社会教育センター	豊山町役場	豊山町商工会	豊山中学校	伊勢山	伊勢山南	青塚古墳前	北部市場東	黒川	愛知県庁前	名古屋栄		名古屋栄	愛知県庁前	黒川	北部市場東	青塚古墳前	伊勢山南	伊勢山	豊山中学校	豊山町商工会	豊山町役場	豊山町社会教育センター	青山東栄	青山	青山江川	航空館boon			
1	航空館boon											1	1	1	4	7	15	名古屋栄			1	18	5	2	2	7	7		3	2		9	56	
2	青山江川												4	1	1	7	14	愛知県庁前			6				1	1	2				1	11		
3	青山												1		2	3	13	黒川			4	4	1	1		2	3	6	2			2	24	
4	青山東栄												2	5	7	12	北部市場東										2							
5	豊山町社会教育センター												3		6	11	青塚古墳前										1						1	
6	豊山町役場												1	1	2	4	10	伊勢山南																
7	豊山町商工会												3	3	2	8	9	伊勢山																
8	豊山中学校												2		6	8	8	豊山中学校																
9	伊勢山														2	2	7	豊山町商工会																
10	伊勢山南												2	1	1	4	6	豊山町役場																
11	青塚古墳前												5	1	7	13	5	豊山町社会教育センター																
12	北部市場東												10	6	27	43	4	青山東栄																
13	黒川															3	3	青山																
14	愛知県庁前															2	2	青山江川																
15	名古屋栄															1	1	航空館boon																
合計															1	32	16	62	112				1	28	9	3	2	10	4	18	5	2	12	94

- ・24日平日上りでは、北部市場東→名古屋栄が最も多く(27人/日)、次いで北部市場東→黒川(10人/日)の順になっていました。豊山町内では、青塚古墳前から名古屋市内方面への利用が多くなっていました。
- ・24日平日の下りでは、23日と同様に名古屋栄→北部市場東(18人/日)が最も多く、

次いで名古屋栄→航空館 boon（9人/日）の順でした。町内においては、「北部市場東」「航空館 boon」「豊山町役場」「豊山中学校」が比較的多くなっていました。

南ルート【3月20日（月・祝）】上り																南ルート【3月20日（月・祝）】下り																			
乗車	降車															乗車	降車																		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1				
	航空館boon	青山江川	青山	青山東栄	豊山町社会教育センター	豊山町役場	豊山町商工会	豊山中学校	伊勢山	伊勢山南	青塚古墳前	北部市場東	黒川	愛知県庁前	名古屋栄	合計	名古屋栄	愛知県庁前	黒川	北部市場東	青塚古墳前	伊勢山南	伊勢山	豊山中学校	豊山町商工会	豊山町役場	豊山町社会教育センター	青山東栄	青山	青山江川	航空館boon	合計			
1	航空館boon														2	2	15	名古屋栄			14	6	2	5	1	2	1	1	1	1	32				
2	青山江川														1	1	14	愛知県庁前			1											1			
3	青山														2	2	13	黒川			1			1	4	2					1	9			
4	青山東栄								1						1	3	12	北部市場東																	
5	豊山町社会教育センター																11	青塚古墳前																	
6	豊山町役場														1	2	3	10	伊勢山南																
7	豊山町商工会																9	伊勢山																	
8	豊山中学校															3	3	8	豊山中学校																
9	伊勢山																7	豊山町商工会																	
10	伊勢山南															2	2	6	豊山町役場																
11	青塚古墳前														1	1	4	7	5	豊山町社会教育センター															
12	北部市場東														2	23	25	4	青山東栄																
13	黒川																3	青山																	
14	愛知県庁前																2	青山江川																	
15	名古屋栄																1	航空館boon																	
合計										1				1	9	3	35	49	合計																42

- ・20日休日の上りでは、平日と同様に北部市場東→名古屋栄（23人/日）が突出して多く、次いで青塚古墳前→名古屋栄（4人/日）の順でした。町内では、青塚古墳前や豊山中学校以外は、いずれのバス停からも1、2人の利用でした。
- ・20日休日の下りでは、名古屋栄→北部市場東（14人/日）が最も多く、次いで名古屋栄→青塚古墳前（6人/日）となっています。豊山町内では、名古屋栄から青塚古墳前（6人/日）・豊山中学校（5人/日）へのODが比較的多くなっていました。
- ・平日より休日の利用は減少し、南ルートは主に通勤・通学利用が主と考えられます。

南ルート【4月21日（金）】上り																南ルート【4月21日（金）】下り																			
乗車	降車															乗車	降車																		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1				
	航空館boon	青山江川	青山	青山東栄	豊山町社会教育センター	豊山町役場	豊山町商工会	豊山中学校	伊勢山	伊勢山南	青塚古墳前	北部市場東	黒川	愛知県庁前	名古屋栄	合計	名古屋栄	愛知県庁前	黒川	北部市場東	青塚古墳前	伊勢山南	伊勢山	豊山中学校	豊山町商工会	豊山町役場	豊山町社会教育センター	青山東栄	青山	青山江川	航空館boon	合計			
1	航空館boon															6	6	15	名古屋栄			19	2	2	5	7	1	4	2	7	49				
2	青山江川															3	5	8	14	愛知県庁前			3	1	1	1	1			1	8				
3	青山															3	4	13	黒川			4	9	3	2	1	5	4	1	2		31			
4	青山東栄									1					1	8	10	12	北部市場東							2					3				
5	豊山町社会教育センター														6	2	8	11	青塚古墳前							1					1				
6	豊山町役場														4	1	3	8	10	伊勢山南															
7	豊山町商工会														1	3	2	6	9	伊勢山									1			1			
8	豊山中学校															4	6	10	8	豊山中学校															
9	伊勢山															1	3	4	7	豊山町商工会															
10	伊勢山南														2	1	3	6	6	豊山町役場															
11	青塚古墳前														5	1	10	16	5	豊山町社会教育センター															
12	北部市場東														9	3	17	29	4	青山東栄															
13	黒川																	3	青山																
14	愛知県庁前																	2	青山江川																
15	名古屋栄																	1	航空館boon																
合計										1					35	11	68	115	合計																93

3-1-3. バス利用者アンケート調査

平成29年3月の名古屋市営バス黒川11号系統（黒川～北部市場）の県営名古屋空港延伸社会実験に際して、名古屋市営バス黒川11号系統（黒川～県営名古屋空港）、とよやまタウンバス南ルート、あおい交通空港直行バス（幸田・勝川線含む）、名鉄バス西春・空港線において、バス利用者を対象にしたアンケート調査を同年3月と4月に行いました。

調査概要を下のとおり、調査結果を月別にまとめて表3-1と表3-2に示します。

(1) 調査概要

①名古屋市営バス社会実験運行利用者アンケート調査

- 実施日：平成29年3月20日（月・祝）～22日（水）、25日（土）～31日（金）
- 対象路線：名古屋市営バス黒川11系統（黒川～県営名古屋空港）：社会実験路線
- 対象便：調査日ごとに異なる
- 調査対象：社会実験区間（北部市場～県営名古屋空港間）を含むバス利用者
- 実施方法：始発バス停（黒川もしくは県営名古屋空港）でバス待ちの利用者にその場でアンケート記入を依頼
- 回収状況：404人（うち「敬老」が202人、「その他」が202人）

②とよやまタウンバス南ルート利用者アンケート調査

【3月】

- 実施日：平成29年3月20日（月・祝）、23日（木）、24日（金）
- 対象路線：南ルート全線（名古屋栄～航空館 boon）
- 対象便：全便（ただし、混雑状況により一部便は未実施）
- 調査対象：バス利用者
- 実施方法：バス車内に調査員が同乗し、バス利用者にアンケート記入を依頼
- 回収状況：225人

【4月】（※4～5月に実施したが「4月」と表記）

- 実施日：平成29年4月21日（金）～24日（月）、30日（日）、5月12日（金）
- 対象路線：南ルート全線（名古屋栄～航空館 boon）
- 対象便：調査日ごとに異なる
- 調査対象：バス利用者
- 実施方法：バス車内に調査員が同乗し、バス利用者にアンケート記入を依頼
- 回収状況：226人

③名鉄バス西春・空港線利用者アンケート調査

【3月】

- 実施日：平成29年3月19日（日）～24日（金）、26日（日）
- 対象路線：西春・空港線の全線（名鉄犬山線・西春駅～名古屋空港）
- 対象便：調査日ごとに異なる
- 調査対象：豊山町内の区間のバス利用者（一部日程では北名古屋市内の利用者を含む）
- 実施方法：始発バス停とバス車内にてバス利用者によるアンケート記入を依頼
- 回収状況：226人

【4月】（※4～5月に実施したが「4月」と表記）

- 実施日：平成29年4月25日（火）、28日（金）、30日（日）、5月7日（日）
- 対象路線：西春・空港線の全線（名鉄犬山線・西春駅～名古屋空港）
- 対象便：調査日ごとに異なる
- 調査対象：バス利用者
- 実施方法：バス車内に調査員が同乗し、バス利用者によるアンケート記入を依頼
- 回収状況：168人

④あおい交通空港直行バス（幸田・勝川線含む）アンケート調査

【3月】

- 実施日：平成29年3月19日（日）、20日（月・祝）、22日（水）～24日（金）
- 対象路線：名古屋空港線・幸田勝川線の全線
- 対象便：調査日ごとに異なる
- 調査対象：全バス利用者（ただし、混雑状況により一部便は未実施）
- 実施方法：始発バス停とバス車内にてバス利用者によるアンケート記入を依頼
- 回収状況：188人（うち「県外から」が67人、「県外へ」が45人、「県内の移動」が76人）

【4月】

- 実施日：平成29年4月21日（金）～24日（月）、28日（金）、30日（日）
- 対象路線：名古屋空港線・幸田勝川線の全線
- 対象便：調査日ごとに異なる
- 調査対象：バス利用者（ただし、混雑状況により一部便は未実施）
- 実施方法：バス車内に調査員が同乗し、バス利用者によるアンケート記入を依頼
- 回収状況：219人

(2) 調査結果の概要

表3-1 バス利用者アンケート調査結果の概要(3月分)

設問区分	設問内容	名古屋市営バス(社会実験路線)	とよやまタウンバス南ルート	名鉄バス西春・空港線	あおい交通名古屋空港直行バス(幸田・勝川線含む)	総括
回収票数		404票(3月)	225票(3月)	226票(3月)	188票(3月)	—
利用者属性	①性別	・全体では「男性」が52% ・敬老バス利用者のみでは「女性」が51%	・「男性」と「女性」が半々で同割合	・「男性」が約5割	・県内外への移動に係らず「男性」が5～6割	●名古屋市営バス、タウンバス以外は主に通勤や業務などによる利用のため「男性」が多い(③を勘案するとタウンバスも通勤利用が中心)
	②年齢	・全体では60代・70代で約4割を占めるが、敬老バス利用者を除くと40代が22%と最も高い割合	・60代が最も高く約20% ・40、50代もそれぞれ約15%と高い	・40代、50代が高く19～20%	・40代が最も高く約21% ・20代、30代、50代が共に約15%	●名古屋市営バスの利用者は高齢者が多い ●名鉄バス西春・空港線、空港直行バスは比較的幅広い年齢層が利用
	③職業	・敬老バス利用者を除くと「会社員・公務員・団体職員」が約45%	・「会社員・公務員・団体職員」が約54%、次いで「主婦・主夫」	・「会社員・公務員・団体職員」が約60%、次いで「主婦・主夫」	・「会社員・公務員・団体職員」が約59%、次いで「学生」	●名古屋市営バス以外は「会社員・公務員・団体職員」の割合が高い(敬老バス利用者を除けば市営バスも同割合)
	④住所	・名古屋市:80%、豊山町:2%	—	—	—	●名古屋市営バスはほぼ名古屋市民による利用
利用状況について	⑤移動目的	・全体と敬老バス利用者以外ともに「レジャー・旅行・趣味」が最も高く約4割、次いで「試乗」	・「通勤」が約35%と最も高く、次いで「買い物」が約24%	・「通勤」が約30%と最も高く、次いで「業務・出張」が約19%	・「レジャー・旅行・趣味」が約30%と最も高く、次いで「その他」「業務出張」が約25%	●名古屋市営バスや空港直行バスは「レジャー・旅行・趣味」や「業務・出張」 ●タウンバスは買い物 ●名鉄バスは「通勤」と「業務・出張」
	⑥目的地	・約5割が「豊山町(空港)、次いで約3割が「名古屋市内」	・「名古屋市内」が約65%、「豊山町内」が約31%	・「豊山町内」が約38%、「愛知県県内(名古屋市除く)」が約27%	・「愛知県外」が約42%で最も高い	●タウンバスは、多くが「名古屋市内」 ●空港直行バスは「愛知県外」が多い
	⑦移動頻度	・全体と敬老バス利用者以外ともに「今回が初めて」が最も高く約4割、次いで「1カ月に1～3回程度」や「1年に1～6日程度」	・「ほぼ毎日」と「1カ月に1～3日程度」が約26%で最も高い	・「1カ月に1～3日」と「ほぼ毎日」が21～23%とほぼ同割合で高い ・通勤の割合が高いことから、他のバスより利用頻度が高い	・全体では「今回が初めて」が最も高く約34%、次いで、「1年に1～6日程度」が約22%であり、県外からの利用者や県外へ向かう利用者	●利用頻度はタウンバスが最も高い ●名鉄バスも通勤利用が多いことから、比較的頻度が高く、名古屋市営バス、空港直行バスは初めての利用が主
	⑧運賃支払方法	・敬老バスが半数、「1日乗車券など」と「ICカード」が16%で同割合(敬老バス利用者以外では、1日乗車券とICカードともに33%)	・「現金」が約41%、「回数券」は約29%	・「ICカード」が約53% ・通勤利用が多いが、定期券よりICカードの割合の方が高い	・「現金」が約59%、「回数券」は約11%	●敬老バスを除くと、ICカードが導入されている名古屋市営バス、名鉄バスはICカード利用が主 ●タウンバス、空港直行バスは半数以上が「現金」であり、高頻度な利用ではないためと予想される
社会実験路線について	⑨社会実験の認知度	—	・「知っていた」が最も高く約68%と高い認知度	・「知らなかった」が最も高く約62%で、認知度は約31%	・「知らなかった」が最も高く約76%で、認知度は約17%	●社会実験に対する認知度が最も低かったのは「空港直行バス」 ●豊山町民は6割以上が認知
	⑩本格実施の利用意向	・全体では「210円」が約57%、「利用しない」は約2%と他のバスに比べて少ない割合	・「210円」が約52%で最も高く、「利用しない」は約17%	・「210円」が約47%で最も高く、「利用しない」は約20%	・「210円」が約34%で最も高く、「利用しない」は約20%	●本格運行の場合も「利用しない」は名鉄バス、空港直行バスが約2割 ●名古屋市営バスは本格運行に対する利用意向が他に比べて高い
	⑪本格実施利用の理由	—	・「運賃が安い」が最も高く約49%、次いで「乗換が楽」で約23%	・「運賃が安い」が最も多く約30%、次いで「乗継が楽」で約20%	・「運賃が安い」が最も高く約50%、次いで「乗継が楽」で約21%	●いずれのバスでも「運賃が安い」が利用の最大の理由であり、空港直行バスが最も高い割合
自由意見	・延伸希望の意見が多い ・エアポートウォークへの乗入れに関する意見あり	・次ページの4月と合算して集計	・次ページの4月と合算して集計	・次ページの4月と合算して集計	・次ページの4月と合算して集計	

表3-2 バス利用者アンケート調査結果の概要（4月分）

設問区分	設問内容	【再掲】 名古屋市営バス（社会実験路線）	とよやまタウンバス南ルート	名鉄バス西春・空港線	あおい交通名古屋空港直行バス （幸田・勝川線含む）	総括
回収票数		404票（3月）	226票（4月）	168票（4月）	219票（4月）	—
利用者属性	①性別	・全体では「男性」が52% ・敬老バス利用者のみでは「女性」が51%	・「女性」が55%	・男女比は半々（各約5割）	・県内外への移動に係らず「男性」が5～6割	●タウンバス以外は主に通勤や業務などによる利用のため「男性」が多い（③を勘案するとタウンバスも通勤利用が中心）
	②年齢	・全体では60、70代が約2割を占めるが、敬老バス利用者を除くと40代が22%と最も高い割合	・20代～50代がほぼ同割合（14～16%）	・40代が最も高く約26%、次いで30、50、60代がほぼ同割合（11～16%）	・全体では30代が最も高く約19%、次いで20、40、50代がほぼ同割合（11～14%）	●いずれの路線も幅広い年齢層（20～60代）が利用
	③職業	・敬老バス利用者を除くと「会社員・公務員・団体職員」が約45%	・「会社員・公務員・団体職員」が約51%、次いで「主婦・主夫」	・「会社員・公務員・団体職員」が約57%、次いで「主婦・主夫」「学生」	・「会社員・公務員・団体職員」が約57%、次いで「学生」	●いずれの路線も「会社員・公務員・団体職員」の割合が高い
	④住所	・名古屋市：80%、豊山町：2%	・豊山町：60%、名古屋市：21%	・豊山町：18%、名古屋市：18% ・その他：56%	・豊山町：6%、名古屋市：23% ・その他：61%	●タウンバスは主に豊山町民の利用 ●名鉄バス、空港直行バスは半数以上が空港利用の豊山町・名古屋市以外からの利用
利用状況について	⑤移動目的	・全体と敬老バス利用者以外ともに「レジャー・旅行・趣味」が最も高く約4割、次いで「試乗」	・「レジャー・旅行・趣味」と「買い物」が約24%、次いで「通勤」が約20%	・「通勤」が約30%と最も高く、次いで「レジャー・旅行・趣味」が約24%	・「レジャー・旅行・趣味」が約3割と最も高く、次いで「業務・出張」でほぼ同割合（約27%）	●空港直行バスは「レジャー・旅行・趣味」や「業務・出張」 ●タウンバス、名鉄バスは「買い物」「通勤」の割合が他より高い
	⑥目的地	・約5割が「豊山町」（空港）、次いで約3割が「名古屋市内」	・約7割が「名古屋市内」、約25%が「豊山町内」	・「豊山町内」と「愛知県内（名古屋市含む）」が同割合（約38%）	・「豊山町内」と「愛知県外」がほぼ同割合（約30%）で最も多い	●タウンバス以外は、「豊山町内」 ●タウンバスは、多くが「名古屋市内」
	⑦移動頻度	・全体と敬老バス利用者以外ともに「今回が初めて」が最も高く約4割、次いで「1カ月に1～3回程度」や「1年に1～6日程度」	・「1カ月に1～3日程度」が最も高く約34%、次いで「1週間に1～3日程度」が約24% ・利用頻度は比較的高い	・「ほぼ毎日」「1年に1～6日程度」がほぼ同割合（約24%）で高い ・通勤の割合が高いため、他のバスより利用頻度が高い	・全体では「今回が初めて」が最も高く約33%、次いで、「1年に1～6日程度」が約26%であり、県外からの利用者や県外へ向かう利用者	●利用頻度が高い順に名鉄バス、タウンバス、空港直行バス ●空港利用者は「年に1～6日程度」の頻度が多いと予想される
	⑧運賃支払方法	・敬老バスが半数、「1日乗車券など」と「ICカード」が16%で同割合（敬老バス利用者以外では、1日乗車券とICカードともに33%）	・「現金」が約46%、「回数券」は約17%	・「ICカード」が約52% ・通勤利用が多いが、定期券よりICカードの割合の方が高い	・「現金」が約52%、「回数券」は約12%	●名鉄バスはICカード利用が主 ●タウンバス、空港直行バスは半数程度が「現金」であり、高頻度な利用ではないためと予想される
社会実験路線について	⑨社会実験の認知度	—	・「知っていたが利用しなかった」が最も高く約45%、「実際に利用した」17%も含めると約62%が認知	・「知らなかった」が最も高く約63%で、認知度は約3割	・「知らなかった」が最も高く約72%で、認知度は約23%	●社会実験に対する認知度が最も低かったのは「交通空港直行バス」 ●タウンバス利用者は社会実験について認知していても利用しない人が約4割
	⑩本格実施の利用意向	・全体では「210円」が約57%、「利用しない」は約2%と他のバスに比べて少ない割合	・「210円」が約52%で最も高く、「利用しない」は約11%	・「210円」が約43%で最も高く、「利用しない」は約26%	・「210円」が約37%で最も高く、「利用しない」は約20%	●本格運行の場合も「利用しない」は名鉄バス、空港直行バスとも約2割
	⑪本格実施利用の理由	—	・「運賃が安い」が最も高く、次いで「乗換が楽」	・「運賃が安い」が最も多く、次いで「乗継が楽」 ・タウンバスに比べ「移動時間が短い」が10ポイント高い	・「運賃が安い」が最も多く、次いで「乗換が楽」	●いずれのバスでも「運賃が安い」が利用の最大の理由だが、名鉄バスでは「移動時間が短い」の割合も他より高い
自由意見	・延伸希望の意見が多い ・エアポートウォークへの乗入れに関する意見あり	・タウンバスは、栄までの運行が高評価の一方で、名古屋市営バスに比べ運賃が高いこと、土日含めた増便、ICカード対応に関する意見あり	・意見自体少ない	・意見自体少ない	●延伸運行に肯定的な意見が多い	

3-2. バス停から300m範囲内の人口

バス停から300mの範囲内に、町内ほぼすべてのエリアはカバーできていますが、一部で300m範囲外のエリアが残されており、特に青山地区では多い傾向にあります。

またバス停から300m範囲内の人口カバー率は、平成25年の91.9%から令和元年12月時点では93.6%となっています（算出方法はP23を参照）。

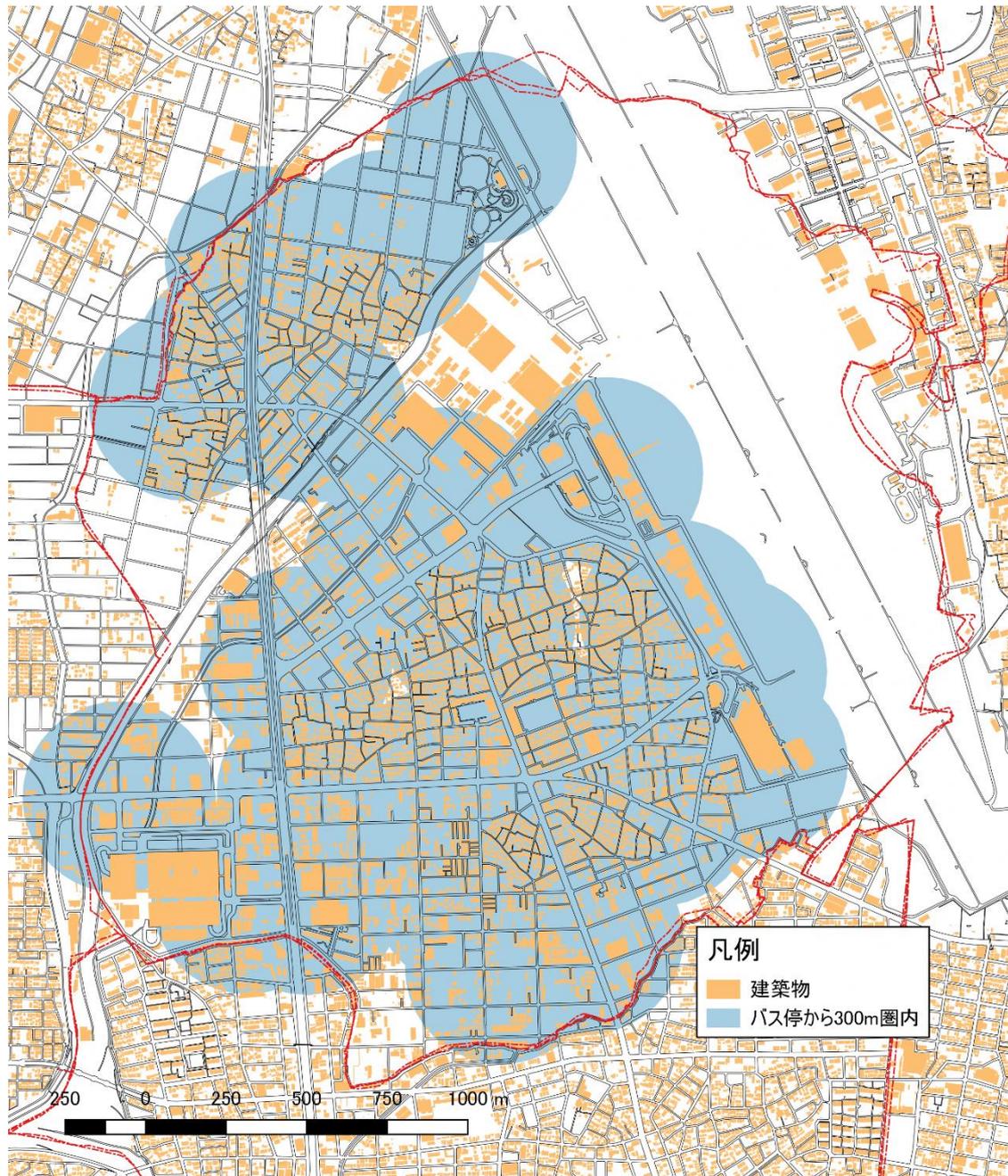


図3-1 豊山町のバス停勢圏

3-3. 町民等の意向の整理

3-3-1. 「平成 30 年度町民意識調査」の結果から

- ・以前よりも住みやすくなった理由として「商業施設の充実」「公共交通の便の充実」が挙げられていました。
- ・町外に移りたい理由は「交通の便が良くない」が突出して多く挙げられていました。
- ・重要度指数が高く満足度指数が低い「A重点課題」に該当し、重点的な対応が望まれると想定される施策は、「利便性の高い公共交通」、「安全で快適に利用できる道づくり」、「美しい環境衛生の維持・保全」、「防犯・交通安全体制の強化・意識の高揚」の4施策でした。

3-3-2. 住民懇談会

住民からの意見を把握するために、令和元年8月31日に豊山小学校区、青山地区、志水小学校区の3地区に分けて、それぞれ住民懇談会を行いました（参加者 計21名）。

（1）豊山小学校区

- ・ほとんどの参加者は町内外の移動ともに自動車・自転車を使うことが多いものの、一部の参加者は、名古屋駅や栄に行く際に空港連絡バスやとよやまタウンバス南ルート、西春駅から鉄道を利用していることがわかりました。
- ・名古屋駅や栄までの運賃が高い、名古屋市敬老バスを町内でも利用できるようにしてほしい、とよやまタウンバス南ルートの最終バスを22時台まで延長してほしいといった意見がありました。
- ・エアポートウォークのバス停には上屋がなく、朝はトイレが利用できないという意見がありました。
- ・総合福祉センターしいの木、総合福祉センター南館ひまわりなどの公共施設に自転車を止められるようにし、バスを待つことができるスペースを設けられないかという意見がありました。

（2）新栄小学校区

- ・青山地区にはスーパーがないので、自動車・自転車を使うことが多いという意見がありました。
- ・一部の参加者からは、名古屋駅へ行く際に社会教育センターに自転車を止めて、バスを利用するという意見がありました。
- ・町外への通院には、西春駅周辺や小牧市内、名古屋市北区へ行くことが多いという意見がありました。また、済衆館病院についてはお見舞いで行く人はいるものの車での移動がほとんどであること、町内病院からの紹介先は西部医療センターと小牧市民病院の2択となっていることがわかりました。

- ・運賃が高い、本数が少ないという要望がありました。また、西春駅を利用したくても、青山地区のうち国道41号西側からは直接行くバスがないため不便であるという意見もありました。
- ・意見交換の中で、とよやまタウンバス南ルートを青山高添バス停まで延伸することで、青山地区の公共交通利便性の向上につながるということがわかりました。
- ・とよやまタウンバス北ルートの経路について、アピタよりも小牧駅につながったほうが外出の選択肢が増えるという意見がありました。

(3) 志水小学校区

- ・公共交通を利用する住民は、とよやまタウンバスのほかに、名古屋市内の地下鉄駅やバス停（如意車庫前など）まで自転車やバイクなどで移動し、地下鉄やバスを利用していることがわかりました。
- ・とよやまタウンバス北ルートは、志水小学校区内では一方向のみ運行している区間があり、買い物では使えないという意見がありました。
- ・エアポートウォークまでバスを使っていくことはあまり考えられず、子どもも自転車で走っているという意見がありました。

4. 地域公共交通網形成計画の上位・関連計画

ここでは、本計画の上位計画、及び整合を図る必要がある関連計画を整理します。

4-1. 上位計画

4-1-1. 豊山町第5次総合計画

第5次総合計画では、重点戦略2「暮らしがキラリと輝くまちづくり」において、「利便性の高い交通網の形成」が挙げられており、とよやまタウンバスの運行本数、時間帯、運賃、ルート、バス停環境などの改善や運行車両更新などの利便性向上を図るとしています。

施策の進め方として、交通機関利用者の要望に敏感である必要があり、アンケート調査などを通じて利用者が何を求めているかに注視して、施策を推進するとしています。また、施策の効果的な実施に向け、交通事業者などが参画する地域公共交通会議による公共交通施策の進行管理を行うことも挙げています。

施策の具体内容は「(1)公共交通事業の検討と充実」「(2)とよやまタウンバスの充実」「(3)公共交通の利用促進」「(4)空港振興と周辺環境対策」の4つを挙げており、令和11年度までの目標値として、①とよやまタウンバス年間利用者数80,000人、②空港利用促進補助の利用者数1,275人と定めています。

4-2. 関連計画

4-2-1. 豊山町都市計画マスタープラン

都市計画マスタープランは、「豊山町第5次総合計画」や愛知県が定める「名古屋都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」等の計画に即し、概ね20年後の長期的視点から本町が目指す姿を展望しつつ、概ね10年を計画対象期間として、それを実現していくための方策を明らかにする計画です。まちづくりの基本理念である「小さくてキラリと輝くまちづくり」を踏まえて、「活力のあるまち」、「暮らしやすいまち」、「時代に向き合うまち」を都市計画の目標として設定しており、このうち、本計画に関連が強いのは「暮らしやすいまち」と「時代に向き合うまち」となります。

都市計画マスタープランでは、役場・社会教育センターなどの公共公益施設が立地する地区を、様々な住民活動の場として、また、路線バスの結節点として、住民・在勤者が集い、交流するコミュニティの拠点として位置づけています(図4-1)。

また、都市整備の方針として、コンパクトで起伏が小さい町の特徴を活かし、健康的で環境負荷の低い都市をつくるため、バスなどの公共交通による利便性の確保とともに、徒歩や自転車交通の利便性、安全性、快適性を向上することにより、過度に自動車に依存しない交通体系づくりを推進するとしています。

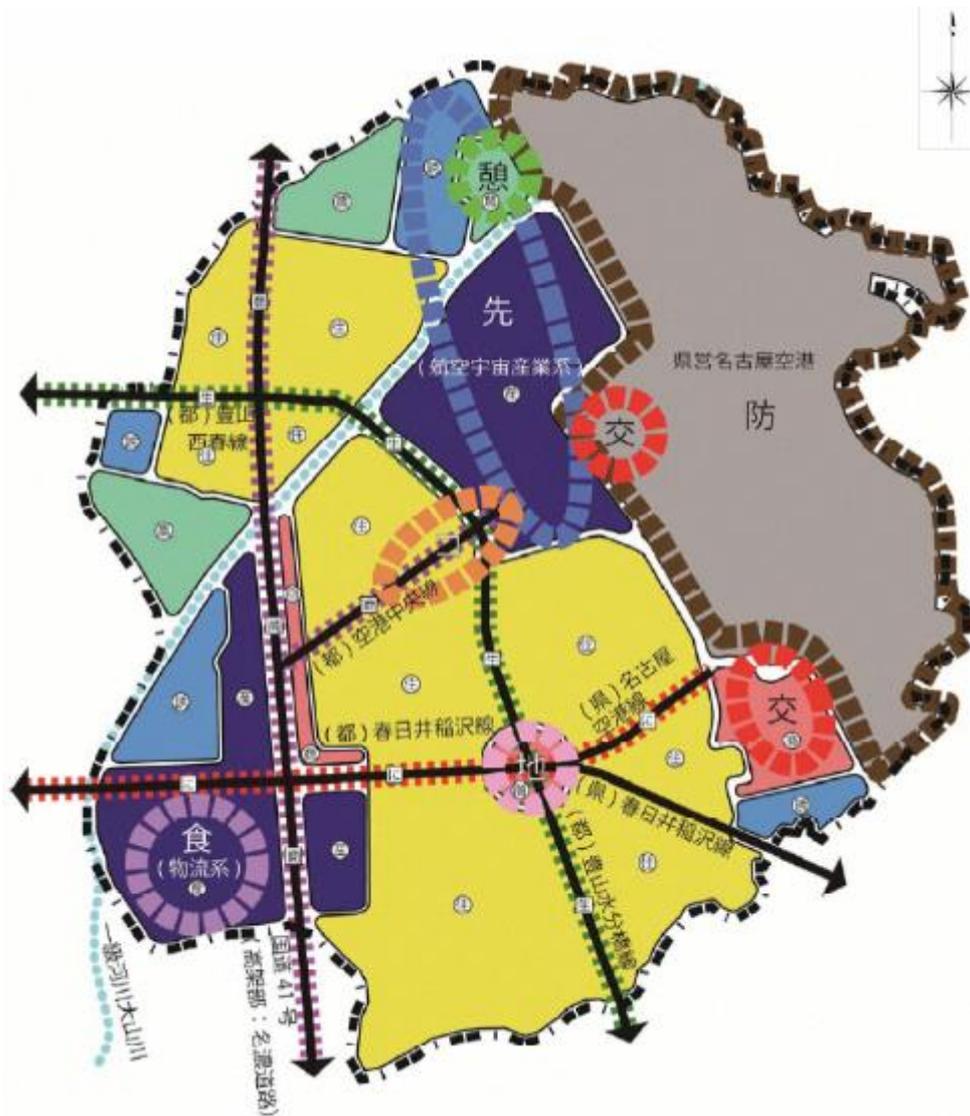


図4-1 将来都市構造図

(※オレンジの破線で囲まれたエリアがコミュニティ拠点)

4-2-2. 第8次豊山町高齢者福祉計画・第7次介護保険事業計画

第8次豊山町高齢者福祉計画・第7次介護保険事業計画は、介護保険法第117条及び老人福祉法第20条の8の規定を根拠に、豊山町総合計画及び豊山町地域福祉計画を上位計画として一体的に策定した計画です。

「地域包括ケアシステムの深化・推進」「生きがいの推進」「介護サービス基盤の整備」の3つを基本目標としており、これらを交通の側面から支援していくことが重要です。

4-2-3. 豊山町障害者福祉計画（第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画）

豊山町障害者福祉計画は、障害者総合支援法第88条に基づく、障がい福祉サービス、相談支援及び地域生活支援事業の提供の確保に関する「障害福祉計画」と、児童福祉法第33

条の20に基づき、障がい児支援の提供体制を確保するための「障害児福祉計画」2つをあわせた計画です。「障がい者の自己決定の尊重と意思決定の支援」「町を実施主体とした関連事業所・団体・組織と連携した障がい福祉サービスの充実」「地域で生活しやすく働きやすい環境づくりを目指したサービス体制の整備」「地域共生社会の実現に向けた取組み」「障がい児の健やかな育成のための発達支援」の5つを基本理念としており、これらを交通の側面から支援していただくことが重要です。

4-2-4. 豊山町子ども・子育て支援事業計画

子ども・子育て支援事業計画は、子ども・子育て支援法に基づき、すべての子ども自身の「育ち」と子育て中の保護者を支援するとともに、町民が子育てについて理解と認識を深め、家庭、保育や幼児教育の場、学校、事業者、行政機関などが相互に協力し、地域社会が一体となって子ども・子育てを推進するものです。「子どもが、親が、みんなとともに育つとよやま」を基本理念に、5つの基本目標を定めています。

子ども・子育てには、子どもと保護者が安全・安心して外出できる環境の整備が必要であり、本計画とは、こうしたニーズを交通の面から支援することで関わりがあります。

4-2-5. 豊山町男女共同参画社会計画「第2次とよやまレインボープラン」

男女共同参画社会計画「第2次とよやまレインボープラン」は、性別や年齢、国籍、障がいの有無、居住年数などに関わりなく、個人が活躍できる社会を目指すという男女共同参画の視点を活かし、あらゆる立場の人々が互いの人権を尊重しあい、個性と能力が発揮できるまちづくりを目指した計画です。「男女共同参画の視点を活かした豊かなまちづくり」を基本目標に、「すべての人が暮らしやすいまちづくり」、「健康で笑顔あふれるまちづくり」、「地域の交流・絆を深めるまちづくり」の3つの重点目標を定めています。

本計画とは、「健康で笑顔あふれるまちづくり」の「豊かな生活空間の構築」と特に関わりが深く、子どもや妊産婦、高齢者、障がい者なども、気軽に自由に移動できるように、公共交通の充実を図ることが必要です。

4-2-6. 第2次とよやま健康づくり21計画

第2次とよやま健康づくり21計画は、高齢化の進行、生活の変化や運動不足、ストレスなどの健康に関する課題が多様化する中で、健康でいきいきと生活できる町を目指して、健康寿命の延伸や健康づくりに取り組むための計画です。「健康長寿のあたたかなまち、とよやま！」を基本目標に、4つの基本方針を定めています。

本計画とは、過度なマイカー利用から公共交通利用に転換することで、駅やバス停まで歩くことを通じて健康の維持・増進にもつながることから、「生活習慣の見直し」と関わりがあります。

5. 地域公共交通網形成計画の基本的な考え方

5-1. 基本方針

豊山町第5次総合計画、及び豊山町都市計画マスタープランをはじめとする関連計画が目指すところを踏まえ、第一次計画に引き続き、本計画では自動車に頼らなくても、子どもや高齢者も安心して町内を回遊するとともに、町外への通勤・通学や買い物、通院など生活に必要な施設に行きやすい公共交通環境の充実に取り組みます。

5-2. 計画の区域

- ・豊山町全域

5-3. 計画期間

- ・令和2年度～令和6年度の5年間

5-4. 計画の目標

- ・第一次計画に引き続き、自動車に頼らなくても、誰もが、安全・安心で便利に、行きたい所に行ける地域公共交通を実現するため、本計画では、「安全・安心」、「利便」、「環境」をキーワードに、「①人にやさしい安全な交通」、「②まちの機能や魅力を高める利便性の高い交通」、「③環境にやさしい交通」に関連する具体的な事業に取り組んでいくこととします。
- ・具体的な数値目標については、豊山町第5次総合計画の公共交通に係る目標指標も踏まえ、令和6年度に、①バスネットワークに対する住民満足度と②バス利用者満足度を令和2年度より10%増、③バス停から300m範囲内の人口カバー率95.0%、④豊山町を走るすべてのバスの年間利用者数2,000,000人、⑤とよやまタウンバス年間利用者数80,000人（うち、⑤a 北ルート11,000人、⑤b 南ルート69,000人）、⑥とよやまタウンバスの町負担率50%（但し、車両減価償却費を除く）を目指します（表5-1）。

表 5 - 1 本計画の目標指標と目標値・現状値

目標指標	単位	目標値 (令和6年度)	現状値 (平成30年度)
	①バスネットワークに対する住民満足度	%	令和2年度より10%増
②バス利用者満足度	%	令和2年度より10%増	令和2年度に調査(予定)
③バス停から300m範囲内の人口カバー率	%	95.0	93.6 (令和元年12月時点)
④豊山町を走るすべてのバスの年間利用者数	人	2,000,000	1,720,088
⑤とよやまタウンバスの年間利用者数	人	80,000	75,126
⑤a 北ルート of 年間利用者数	人	11,000	9,777
⑤b 南ルート of 年間利用者数	人	69,000	65,349
⑥とよやまタウンバスの町負担率	%	50.0	58.5

※町負担率は、数値が小さくなることが望まれる指標です(運行負担率=運行負担金/定額経費)

※町負担率は、車両減価償却費を除いて算出します

6. 目標達成のために行う事業・実施主体

6-1. 「人にやさしい安全な交通」のために行う事業

6-1-1. バスの待合環境の整備

【実施主体：豊山町、施設管理者、交通事業者】

①乗り換え拠点の整備

- ・「豊山町社会教育センター」バス停を乗り換え拠点とするため、点在するバス停についての案内サインの整備、社会教育センターの待合機能強化、バス停上屋の設置、サイクル&バスライド[※]の拠点として駐輪場利用の推進を図ります。

②バス待合環境の改善

- ・社会教育センターのほかに、町役場庁舎、その他公共施設をバス待合施設として活用し、建屋内におけるバスロケーションシステムによるバス接近情報の提供や案内サインの整備、サイクル&バスライドの拠点として駐輪場利用の推進を図ります。

6-1-2. 高齢者の移動支援

【実施主体：豊山町、交通事業者、福祉団体】

①多様な交通サービスとの連携や新たな交通サービスの導入

- ・無理なく歩くことができる距離が短くなる75歳以上高齢者の移動ニーズを満たすために、タクシーや福祉移動サービス等の多様な交通サービスとの連携や、将来の自動運転社会を見据えた新たな交通サービスの導入検討に取り組みます。

②高齢者の利用促進

- ・高齢者の移動手段の一つとしてのバス利用促進を図るため、高齢者割引制度等の導入を研究します。

③「タクシー利用料金補助事業」の継続実施

- ・介護を必要とする高齢者の通院、買い物、娯楽等の利便を図るため、要介護認定又は要支援認定を受けている者に対するタクシー利用券交付します。

④「運転免許自主返納事業」の継続実施

- ・運転免許証を自主返納した高齢者に対し、とよやまタウンバス回数券または町発行のタクシー利用券を交付し、移動の支援を行います。

※サイクル&バスライド：自宅や職場等からバス停近くの駐輪場まで自転車を利用し、バス停でバスに乗り換えて目的地に向かうことができるようにする施策です。

6-2. 「まちの機能や魅力を高める利便性の高い交通」のために行う事業

6-2-1. バスの利便性の向上

【実施主体：豊山町、交通事業者、地域住民】

①とよやまタウンバスの改善

- ・南ルート of 青山地区での経路変更を行うとともに、隣接自治体のコミュニティバスとの接続について、地域住民の協力も得ながら検討・改善します。
- ・社会教育センター周辺で新たな道路が開通している一方、とよやまタウンバスの経路は旧道時代のままなので、経路変更・改善をします。
- ・上記以外にも、利用者ニーズに対応した改善や見直しを行っていきます。

②とよやまタウンバスの車両更新

- ・老朽化しているとよやまタウンバス南北ルートの車両をバリアフリーにも対応した新しい車両に更新します。

③Google Map 等の検索サービスへの対応（GTFS 整備）

- ・Google Map 等の検索サービスへ対応するため、「標準的なバス情報フォーマット（GTFS）」に基づくバスの路線や時刻のデータ整備・公開を行います。

6-2-2. 利用しやすい運賃体系の構築

【実施主体：豊山町、交通事業者】

①わかりやすい運賃体系への見直し

- ・町内を走るとよやまタウンバス、あおい交通、名鉄バス、名古屋市営バスの運賃体系はそれぞれが異なっているため、わかりやすい運賃体系への見直しを検討します。

②新たな運賃支払い方法の導入

- ・交通系 IC カードや電子マネー、QR 決済等の新たな運賃支払い方法の導入に取り組みます。

6-2-3. 隣接自治体のバス路線との連携

【実施主体：豊山町、隣接自治体、交通事業者】

①名古屋市営バスの県営名古屋空港までの延伸

- ・北部市場まで乗り入れている名古屋市営バスの延伸について、今後も名古屋市に要請を続け、必要な場合は社会実験等も行いながら、延伸の実現に取り組みます。

②きたバス（北名古屋市）、こまき巡回バス（小牧市）、かすがいシティバス（春日井市）との連携

- ・町ホームページにリンクを掲載し、引き続き情報提供を行います。
- ・豊山町発着のバス路線と接続する「きたバス」「こまき巡回バス」の時刻表や路線図を統合した総合時刻表や総合バスマップの作成・配布に取り組みます。

6-3. 「環境にやさしい交通」のために行う事業

6-3-1. 自動車に過度に依存しない交通行動の促進

【実施主体：豊山町、交通事業者、地域住民】

①豊山町公共交通マップの作成・配布

- ・継続して実施します。
- ・豊山町発着のバス路線と接続する「きたバス」「こまき巡回バス」の時刻表や路線図を統合した総合時刻表や総合バスマップの作成・配布に取り組みます（再掲）。
- ・サイクル&バスライド駐輪場のあるバス停には、駐輪場マークを追加します。

②出前講座や利用促進イベントの実施

- ・高齢者や子ども、地域団体などを対象とした出前講座の開催、公共交通利用促進イベントの実施に、積極的に取り組みます。

③交通行動の変容を促すモビリティ・マネジメントの実施

- ・公共交通利用を想像しておでかけプランを考えてもらう「行動プラン法」や、アンケートやヒアリングなどの調査・コミュニケーションを繰り返し行いながら交通行動の変容を促す「トラベル・フィードバック・プログラム※」といったモビリティ・マネジメントの手法を用いて、自動車に過度に依存しない交通行動への変更を促す取り組みの実施を研究します。

④公共交通のPR

- ・とよやまタウンバスの車内 Wi-Fi やバスロケーションシステムなどのサービスについて、住民への周知を強化して取り組みます。
- ・タクシー事業者がそれぞれで行っている割引制度やサービスのPRを、事業者と連携して取り組みます。
- ・町ホームページで継続して情報提供を行うとともに、「広報とよやま」において、PRコーナーを設けて周知の強化に取り組みます。

※トラベル・フィードバック・プログラム：ある一定の期間、「どこから・どこまで・どのような手段で」を記録してもらいアンケート調査を行います。その集計結果に基づき、個別の診断書（CO2 排出量やカロリー消費量、交通行動の改善案など）を提示します。診断書を受けての1人1人の交通行動の変化について再度アンケート調査を行い、さらに診断書を提示するなど、繰り返しのやり取りを通して交通行動の変容を促す手法です。

6-3-2. 自転車・徒歩で移動できる交通環境の整備

【実施主体：豊山町、道路管理者】

①安全で魅力的な自転車・歩行空間の整備

- ・バスの乗り降りがしやすいよう、バス停周辺の歩道を整備します。
- ・自転車と公共交通の共存のために、出前講座や利用促進イベントなどで自転車マナーの啓発活動に取り組みます。

②サイクル&バスライドの推進

- ・乗り換え拠点として整備する社会教育センターをはじめ、その他の公共施設をバス待合施設として活用します。また、公共施設については、サイクル&バスライド拠点として駐輪場利用の推進を図ります。
- ・豊山町公共交通マップには、拠点施設に駐輪場のマークを追加します（再掲）。

6-4. 実施スケジュール

表 6-1 事業の内容・実施主体とスケジュール

	事業の内容（実施主体）	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	
	(1) 既存路線の維持と国の事業の積極的な活用 (町・地域公共交通会議・交通事業者)						
	①既存路線の継続運行					→	
		国のスケジュール等に合わせて申請等					
	②地域公共交通確保維持改善事業の活用					→	
		国のスケジュール等に合わせて申請等					
	(2) 地域公共交通会議の開催（町・地域公共交通会議）						
①地域公共交通会議の開催						→	
	適宜開催（年3回程度）						
人 に や さ し い 安 全 な 交 通	(1) バスの待合環境の整備（町・施設管理者・交通事業者）						
	①乗り換え拠点の整備			→		→	
		検討・協議			実施		
	②バス待合施設として公共施設の有効活用			→		→	
		検討・協議			実施		
	(2) 高齢者等の移動範囲の拡大（町・交通事業者・福祉団体）						
	①多様な交通サービスとの連携や新たな交通サービスの導入			→			→
		検討・協議			実施		
	②高齢者割引制度の導入		→				→
		検討・協議			実施		
③「タクシー利用料金補助事業」の継続実施						→	
	継続して実施						
④運転免許自主返納事業の実施						→	
	随時実施						
ま ち の 機 能 性 や 高 い 交 通 を 高 め る	(1) バスの利便性の向上（町・交通事業者・地域住民）						
	①とよやまタウンバスの改善					→	
		随時実施					
	②とよやまタウンバスの車両更新			→			
		実施					
	③GoogleMap等の検索サービスへの対応（GTFS整備）						→
		随時実施					
	(2) 利用しやすい運賃体系の構築（町・交通事業者）						
	①わかりやすい運賃体系への見直し			→			→
		検討・協議			実施		
②新たな運賃支払い方法の導入			→			→	
	検討・協議			実施			
(3) 近接市町のバス路線との連携（町・近隣自治体・交通事業者）							
①名古屋市営バスの県営名古屋空港までの延伸						→	
	継続して要請						
②きたバス（北名古屋市）、こまき巡回バス（小牧市）、かすがいシティバス（春日井市）との連携				→		→	
	検討・協議			実施			
環 境 に や さ し い 交 通	(1) 自動車に過度に依存しない交通行動の促進 (町・交通事業者・地域住民)						
	①豊山町公共交通マップの作成・配布					→	
		随時実施					
	②出前講座や利用促進イベントの実施					→	
		随時実施					
	③交通行動の変容を促すモビリティ・マネジメントの実施						→
		随時実施					
	④公共交通のPR						→
		随時実施					
	(2) 自転車・徒歩で移動できる交通環境の整備（町・道路管理者）						
①安全で魅力的な自転車・歩行空間の整備						→	
	随時実施						
②サイクル&バスライドの推進		→				→	
	検討・協議			実施			

7. 達成状況と成果の評価

7-1. 事業達成状況の評価方法

6章であげた目標達成のために行う事業の達成状況は、地域公共交通会議の開催に合わせてチェックリストを作成し、評価します。

評価時点で達成していない事業については、その原因と今後の予定を明記するとともに、必要に応じて地域公共交通会議で議論し、計画の見直しも行います。

7-2. 事業の成果の評価方法

6章であげた目標達成のために行う事業が行われた成果を評価するために、5章で設定した数値目標を用いて評価します。

数値目標については、豊山町第5次総合計画の公共交通に係る目標指標も踏まえ、令和6年度に、①バスネットワークに対する住民満足度と②バス利用者満足度を令和2年度より10%増、③バス停から300m範囲内の人口カバー率95.0%、④豊山町を走るすべてのバスの年間利用者数2,000,000人、⑤とよやまタウンバス年間利用者数80,000人（うち、⑤a 北ルート11,000人、⑤b 南ルート69,000人）、⑥とよやまタウンバスの町負担率50%（但し、車両減価償却費を除く）を目指します（表7-1）。

表7-1 本計画の目標指標と目標値・現状値（再掲）

目標指標	単位	目標値 (令和6年度)	現状値 (平成30年度)
	①バスネットワークに対する住民満足度	%	令和2年度より10%増
②バス利用者満足度	%	令和2年度より10%増	令和2年度に調査(予定)
③バス停から300m範囲内の人口カバー率	%	95.0	93.6 (令和元年12月時点)
④豊山町を走るすべてのバスの年間利用者数	人	2,000,000	1,720,088
⑤とよやまタウンバスの年間利用者数	人	80,000	75,126
⑤a 北ルートの年間利用者数	人	11,000	9,777
⑤b 南ルートの年間利用者数	人	69,000	65,349
⑥とよやまタウンバスの町負担率	%	50.0	58.5

※町負担率は、数値が小さくなることが望まれる指標です(運行負担率=運行負担金/定額経費)

※町負担率は、車両減価償却費を除いて算出します

8. 付録

- ・令和元年度豊山町地域公共交通会議名簿
- ・本計画策定のための豊山町地域公共交通会議開催状況
- ・パブリックコメントの実施状況

令和元年度豊山町地域公共交通会議名簿

(敬称略・順不同)

委員区分	所 属	役 職	氏 名
1号委員	豊山町	町長	服部 正樹
2号委員	あおい交通株式会社	代表取締役社長	松浦 秀則
	名鉄バス株式会社	営業本部運行部運行課長	吉岡 実
	名古屋市交通局	営業本部自動車部管理課 主幹	加藤 剛
	公益社団法人愛知県バス協会	専務理事	小林 裕之
3号委員	豊山町老人クラブ連合会	元地区役員	伊藤 千歳
	豊山町心身障害者福祉協会	役員	河村 君枝
4号委員	中部運輸局愛知運輸支局	首席運輸企画専門官	小川 賢二
5号委員	あおい交通株式会社	運行課長	工藤 彰郎
6号委員	尾張建設事務所	維持管理課長	安井 文規
7号委員	西枇杷島警察署	警部補	藪内 大輔
8号委員	愛知県都市整備局	交通対策課主幹	渡邊 重之
9号委員	名古屋大学大学院環境学研究 科附属持続的共発展教育研究 センター	教授	加藤 博和
10号委員	名古屋市住宅都市局	都市計画部交通企画課長	伊藤 禎浩
	名古屋タクシー協会	専務理事	多田 直紀
	三菱重工業株式会社名古屋航 空宇宙システム製作所	名古屋法務部名古屋総務 グループ渉外担当課長	小形 浩
	小牧市	都市政策部都市整備課長	川島 充裕
	豊山町	産業建設部長	佐藤 正司

本計画策定のための豊山町地域公共交通会議開催状況

回	開催日	主な協議事項
第1回	令和元年5月30日(木)	(1) 平成30年度事業報告(案)について (2) 令和元年度事業計画(案)について (3) 豊山町地域公共交通網形成計画の策定について
第2回	令和元年8月30日(金)	(1) タウンバス北ルートの変更について
第3回	令和元年11月28日(木)	(1) 豊山町地域公共交通網形成計画の改訂素案について
第4回	令和2年3月13日(金)	(1) 第二次豊山町地域公共交通網形成計画(地域公共交通計画)案について

パブリックコメントの実施状況

地域公共交通網形成計画の策定に当たり、当該計画(案)に対する町民の意見や提案を把握し、計画に反映することを目的として、パブリックコメントを実施しました。

実施期間	令和2年1月17日から1月31日まで
実施方法	情報公開コーナー、産業・都市政策課窓口、町ホームページで計画(案)を配架・掲示し、郵送やメールなどで意見を集約